

書き之を哭すべきか己の父の光榮を衣生死者を審判し心中の思慮を暴露し凡ての言行に就て吾人より答辨を得んとて來らんとする不死の王ハリストス我等の神に吾人は何等の答辨を與へんとするか吾人ハリストスの名を戴くも毫もハリストスの精神を體せず福音の教を遵奉せざる者は禍なる哉々々々吾人此の如き救を願みざる者希伯來二の三は禍なる哉吾人ハリステイアニンの信とハリステイアニンの希望と愛とを有せざる者は禍なる哉假偽暫時的の現世を愛し吾人の朽つべき肉体の死後此の肉身の幕の背後に來るべき彼の世を嗣くことを慮らざる者は禍なる哉

○人間の靈魂の弱點の一は信仰に鈍くして真理就中信仰と敬虔の眞

理を知るに懶きことなり少年より甚しきは壯丁及び老人に至るまで最も鈍く最も懶く學ぶ所のもの何ぞ信仰と敬虔の眞理是あり無數の經驗之を證す

○睿智の主は人々をして互に相敬し相愛せしめんが爲諸種の人々に賦するに其の天然的及び恩寵的の諸種の特能を以てし之をして互に需要を感せしめんとしたり是を以て吾人は各識らず知らず彼此の弱點を自認し勢ひ自ら神と人々に對して謙遜せざるべからざるに至るあり

○主よ爾自ら爾の至聖なる口にて曰へり爾等純全あること爾等の天の父の純全なるが如くなれと馬太五の四十八我れ純全の者と爲らん

と欲す故に爾ハ我が爲に總ての純全を爲せ蓋し爾曾て曰へり爾等我  
かくしては何事をも行ふ能はずと約翰十五の五

○凡ての祈禱ハ吾人の罪に陥りたる本性を極めて貧窮なるものとし  
又主を以て總ての完全總ての幸福の流れ盡きざる泉吾人の無盡藏の  
寶と爲す實際祈禱に於ては常に靈魂を貧しくせざるべからず神の貧  
しき者は福なり(馬太五の三)

○汝は人の如何に偉大なるかを想像せよ神は彼に居り彼も神に居る  
(約翰第一書四の十五)即ち敬虔なる「ハリステイアニン」に居る者は恰も人  
に非ずしてハリストス其者なるが如し既に我れ生くるに非ず即ちハ  
リストス我の中に生くるなり(加拉太二の二十)何となれば靈魂全体ハ

リストスのものとなるよと猶鐵の火中に在りて總て火の形と爲るが  
如し悉く火なり悉く光なり悉く温暖あり。

○兄弟が陰險に若くは狡猾に若くは故意に非ざる如くにして汝の最  
後の所有物を奪ふが如きことあるも汝は其人に對し温和和睦の意嚮  
を守れ汝ハ斯くして汝が彼に於て神の像を此世の朽つべき凡てのも  
のに超えて愛し汝の愛の永く墮ちざる(哥林多前十三の八)を示せ爾の  
物を取る者には復之を促す勿れ(路加六の三十)爾を認へて爾の裏衣を  
取らんと欲する者には外服をも取ることを聽せ(馬太五の四十)汝は神  
を恃むよりも地の塵なる金銀麵包の如きものを深く恃みとして敵に  
辱めらるゝよとなく乃ち自ら神とその聖なる言を堅く恃みとして彼

を辱むべし何となれば人は惟餅のみを以て生くべきに非ず乃ち凡そ  
 神の口より出づる言を以てすればなり(馬太四の四)此の凡その言と云  
 ふに注意せよ。主宰造物主の各言は汝の生命を維持するを得ること猶  
 彼の各言が數萬の造物を創造變化するを得るが如し。彼言へば即ち成  
 り命すれば即ち造物顯れたり(聖詠卅二の九)彼は實に一言を以て在天  
 不死の幾億萬の軍を無より有に喚起し、聖神を以て之を聖にして之を  
 存在に堅め且維持す汝は愚にも己の不死の靈の位を徒らに地の塵を  
 恃みとするに至るまで卑下する勿れ汝は須く云ふべし神は我の憑恃  
 ありと或は曰へ我が憑恃は父我が避所は子我が幟幟は聖神なり聖三  
 者よと然るに吾人の中最後の金員を奪はれたるに非ず單に其の所有

物の一部分を奪はれたるが爲めに激怒する者甚だ多し忿激暴怒苦言  
 譴責怨訴すること幾回なるを知らず且時として呪詛の言を放つに至  
 ることあり嗚呼公義の神よ吾人ハリスティアニンは最愛の救主が「爾等  
 の生命の爲に何を食ひ何を飲み爾等の身体の爲に何を衣んど慮る勿  
 れ試に天空の鳥を觀よ彼等は稼かす穡らず倉に積まず而して爾等の  
 天の父は之を養ふ爾等先づ神の國と其義とを求めよ然らば此等のも  
 の皆爾等に加はらん(馬太六の廿五、廿六、卅三)と云ふの言若くは人の生  
 命は其所有の饒なるに困らざるなり(路加十二の十五)と云ふの言を知  
 るに拘はらず金錢と稱せらるる此塵芥若くは飲食物すら吾人の靈魂  
 に斯る暴風を起すに足る嗚呼我が神よ吾人は何處まで墮落したる

ぞ吾人は己の品行に就て果して異教人に勝る所あるか吾人の信仰神  
 を恃むの心隣を愛するの情は何處に在るか嗚呼是れ撒但の驕傲なり。  
 吾人の耻辱なり天に在ますの父よ我等の願はざる先に我等の需むる  
 所を知る者よ馬太六の八參看願くば爾不信忘恩不品行の我等を憐め  
 よ主宰よ吾人は我爾を棄てず爾を遺さやらん希伯來十三の五と云ふ  
 爾の恩惠深き言を聞くも日々此世の幸福に眩惑し聖言に背きて爾の  
 旨に戻る。

○汝は身体の損失を恐るゝことなく須く靈的の損毛を恐れよ汝は金  
 銀飲食衣服家屋又は身体其者を失ふことあるも恐るゝ勿れ落膽する  
 勿れ憤る勿れ乃ち敵が汝の靈魂より信と望と神及び隣に對するの愛

を奪ひ汝の心に嫉妬讎念此世の事物に戀々たるの念驕傲及び其他の  
 罪を播く時恐れよ身を殺して靈を殺す能はざる人々を懼るゝ勿れ馬  
 太十の廿八)

○神の不變不易のことを謂て唯爾は易らず聖詠百一の廿八と云へり。  
 ア、汝人間も今日明日明後日も其以後も常に同様にして萬花鏡の如  
 く千變萬化せざらんには如何にぞやア、汝も常に同じく平和善良質  
 撲藹然恒忍勤勉篤實慈善ならんには如何にぞや汝若し赤心より出づ  
 るの信と愛とを以て不變不易の者(神)と体合せば或は此の如くなるを  
 得ん我は爾等の主神易らざる者なり(馬拉基三の六)我は我が耳を惡に  
 傾かざる者として守る蓋し我は能く我に務むる者に善を施す仁慈の

源なり(天使長に對する規程)

○平和は靈魂の安全健康にして平和の喪失は靈魂の健全の失亡なり。

○汝は靈魂の全力を盡して諸機密の前に敬肅し機密を行ひ若くは之を領する前に自ら曰へ是れ神の機密なり我の唯機密の不當なる看守者若くは其の干與者たるに過ぎずと然るに吾人の傲慢なる智識は敢て神の機密をも憶測せんと欲し而して之を探究すること能はざれば己の智識の取るに足らざる裁尺に合はざるものとして徒らに之を排斥す。

○若し夫れ國王の一言は其國に於て大事の行はるゝ原因と爲り一命を發すれば其事行はれて成就すとせんには物質的屬神的なると有形

無形的なる諸造物の主——全能睿智なる王の一言の豈其の凡そ欲する所のことを完成せざらんや言へば即ち造らるゝに非ずや言へば即ち成るに非ずやア、一瞬間に万事を成すを得る全能力よ吾人の罪の爲め就中吾人の弱信失望の爲め吾人の荏弱をして吾人を苦ましめ陶器の如く破るゝこと無らしめよ吾人をして全心を傾けて爾の全能力を信ずるを得せしめよ吾人は凡そ吾人の善き祈願の成るを疑はざらん。

○有形の森羅萬象は其の大小最微の分子に至るまで時々刻々吾人に告ぐるに萬物の主より出て主に由りて存在活動し萬物彼に由りて立ち若くは存在を受け一瞬一秒皆彼に服従するを以てす。

○嗚呼我が人性は何ぞ食に溺るゝの甚しきや嗚呼夫の飲食を以て曾

て吾人を幾方の悪に陥れ今又陥るゝの撒但は誼ふべき哉嗚呼飲食の  
 今吾人を眩惑する何ぞ夫れ強きや吾人は何時まで汝に惑はされ汝に  
 己の生命を托せんとするか吾人は何時まで深く心中に救主の人は惟  
 餅のみを以て生くべきに非す乃ち凡そ神の口より出づる言を以てす  
 (馬太四の四)てふ言を感銘し之を己の生活上品行上に應用せざるか吾  
 人は何時まで美味美食を貪り夫の厭ふべき吝嗇は何時に至りて止む  
 べきか夫の貪利の慾は何時まで其力を逞うすべきか吾人は果して何  
 時まで金錢の爲め衣食住の爲め隣に對して驕傲怨恨憎惡の念を懐か  
 んとするか衣服金銀を以て撒但の幾千万の欺騙は吾人の心の目の前  
 に出現し吾人は之を以て實在的のもの吾人の爲め有益のものゝ如く

に見做し依然其の嬌艶に眩惑し畢竟有害の空想と身靈の極めて害た  
 るものゝ爲に熱中するのみ兄弟よ事苟も飲食に拘はる時は其事美な  
 るが如くなるも瞬間たりとも敵の誘惑を輕信する勿れ爾等先づ神の  
 國と其義とを求めよ然らば此等のもの皆爾等に加はらん(馬太の三十  
 三)爾等餅のことを慮る勿れ即ち謹みて「フアリセイ」及び「サドッケイ」等の酔  
 を防げ是れ信仰及び敬虔の事に對する偽善なり(馬太十六の十一)路加  
 十二の「信仰と敬虔に深く意を注ぎ朽つる糧の爲に勞する勿れ乃ち  
 永遠の生命に存する糧の子が爾等に與へんとする者の爲に勞せよ  
 (約翰六の廿七)爾等須く救主の爾を認へて爾の裏衣を取らんと欲する  
 者には外服即ち最後に有する所のものをも取ることを聽せ(馬太五の

四十と云へる言を服膺して若し要すべくんば最後の所有品をも與へ

○人々私慾に循ひて己の爲に耳を悦ばしむる教師等と擇ぶ提摩太後書四の三今世俗の人々滔々として皆此の如く甚しきは神品にして其譽に倣ふ者亦多きに非ずや彼等は自ら其耳を悦ばしむるの教師を擇びたるに非ずや彼等は惟一の教師ハリストスに就き其福音書に由りて學ばず其教會に就て研究せず乃ち世俗の新聞雜誌記者小説家俳優等に就きて學び且曰く於戲是れ如何に趣味多く如何に風教に益するよと而して縦し言語を以てせずとも實行の上に於て吾人には福音書も不必要なり聖堂と其の奉神禮機密說教等皆吾人に不必要ありと言

明す吾人の教師や此の如く善良にして品行斯くも方正の人々なり主イエススよ吾人の何處まで墮落せしぞ我等復た爾の言を棄てたり(聖詠四十九の十三參看)

○心中に鬱屈たる嘆息憎惡狡獪性急誹謗の湧起するを感じ若くは不潔汚穢の念慮に由りて衰弱を來したるを感じたる時は憂悶する勿れ失望する勿れ乃ち宜く屈せず撓まず之と闘ひ地獄の勝利者主イエスを頼び毅然として熱心之を忍ぶべし誠心己を第一の罪人人間の仲間<sup>間</sup>に堪へざる者と認めて深く謙遜せよ然らば主は汝の謙遜と汝の闘争とを見て汝を助けん汝亦迅速の保護者至聖なる生神童貞女をも頼び其扶助を求めて曰へ至聖なる女よ常に我と闘ふ敵の我が靈魂に

焼透したる多くの傷を醫し給へど守護天使に對する規程)

○汝果して誠心神を呼んで己の父と稱すとせんには至善全能睿智にして己の愛と諸徳に於て渝らざる惟一の父として彼を待めよ現世の幸福に就て彼を待むべく就中ハリストスイイスに於ける未來の幸福の賜に關して彼を待むべし我が神父よ天に在ます我等の父よの言は宜く深く之を心中に銘すべし然れども在天の父の汝に對する愛に由り汝自ら彼より出でたる者智識及び自由の意旨を有する者として神の子と爲れりとせんには汝は亦必ず在天の幸福永遠の嗣業を求むることに己の全力を注がざるべからず汝は須く己が罪に陥りたる者にして且其の陥るや智識と自由とを有して陥りたるに由り己の

意に任せて陥りたるを知り常に之を記憶して凡て此世のものは皆朽つべきもの忽焉として過ぎ去るものとして之を蔑如し就中金銀飲食——全人類をして斯る罪惡の深淵に陥らしめたる此食物に戀々たらずして神の言の光と聖神の照明とにて照さるゝの知識とハリストスイイスに於ける聖神の恩寵にて堅めらるゝ自由の意旨とに由りて墮落より奮起し一步も止まることなく在天無窮の生命に進行すべし。○吾人の熱切なる祈禱に由りて吾人を惡魔の苦患壓迫より救ふ我等の迅速なる保護者女宰生神女至淨鴻慈の處女マリヤに感謝せよ宜く之を仰ぎ視るに在らざる所なく満たざる所なき單純の聖神に在る心の目を以てし恰も己の心中に在る者の如くにして之を見顧んで言ふ



べし迅速の保護者女宰生神女マリヤよ我を妨碍者たる敵より救ひ給へど然らば彼れ忽ち汝の心の信に由り汝の心の彼を恃むに由りて汝を救ひ壓迫と火と重き愛憎は立るに去らん只吾人は須く聖神は到る處にありて在らざる所なく單純の者にして彼と共にする時は凡ての天は我等に近く諸天使諸聖人と共に恰も之を掌上に指すが如く赤心確乎たるの信を以て敵の吾人を束縛し若くは吾人の自ら甘んじて束縛せらるゝ諸罪を誠心痛悔するの心を以て主若くは女宰生神女若くは聖人を顧ばし救助の忽ち輝かんとするを想像確信せざるべからず。女宰の救助や實に奇々奥妙にして其の汝の靈魂に注がるゝこと恰も藥效ある拔爾撒謨の如く芳香馥郁たる新鮮ある空氣の如く氣を鎮む

る藥水の如く只彼の仁慈と能力とを恃み心裡の目にて彼を仰ぎ看れば可なるのみ然れども此の心裡の確乎たる信を以て彼并に主若くは聖人を仰ぎ看るゝとは至難にして敵は百方謀を運らし汝の靈魂と神若くは生神女天使聖人の間に立ちて堅く高く暗き城壁と爲り吾人の心裡の目をして主若くは其の聖人を見るを得ざらしめんとし極力心を味まし信仰を散じ内心を壓迫焚燒昏昧せんとす此等の作用は汝皆之を目して空想と爲し詐偽と爲し此の妄想的城壁を排して主若くは神母又は聖人に到達せざるべからず汝苟も之を切抜かば直に救はれん即ち爾の信爾を救へん(馬太九の廿二)

○汝は心を盡して心中に曰へ主は我が爲に万事なり我は取るに足ら

ざる者我は無力無能なりと主自ら曰く爾等我無くして何事をも行ふ能はずと(約翰十五の五)之に加へて蓋し我は爾等の爲に万事なりと云ふを得べし汝は一擧手一投足にも須く之を確認して凡そ汝の救贖の爲に必要のものは勿論今世の生活の爲に必要のものも亦必ず之を主より受くべきを信じて何事に於ても斷乎として主に就け。

○若し女宰生神女が神と体合する故に因り且万物の主宰に世に比ひなく奉事する故に由りて信と愛とを以て彼の保護を求むる者に速に保護を垂れ之を諸惡より救ふて救贖に關する諸般のものを之に與ふるとせんには況んや主自らをや只薄信ならず靈魂にて彼に對し冷淡ならず無感覺なること石の如くならず乃ち己の中に信仰と神の恩恵

を感謝するの念己の罪を誠心悔悟するの念無限の愛を以て汝を愛したる汝の救世主を父及び聖神と共に愛するの念を燃起すべし。

○汝は主及び神の母若くは聖神に祈るに當り常に主が其心に應じて賜ふよとを記憶せよ主の爾の心に循ふて爾に與ふ—聖詠十九の五賜は心の如何に循ふなり若し信を以て誠實に全心を傾け偽善を以てせずして祈らば汝の信と汝の心の熱心の程度に應じて主より汝に賜はらん之に反して汝の心冷淡に信仰淺く偽善的に祈らんには汝の祈禱は無益なるのみならず自ら神にして神と眞を以て己を拜する者を尋ぬる(約翰四の廿四廿三)主の怒を招かんのみ故に主神の母天使若くは聖人を願ばい須く全心を傾けて之を願べ生者若くは死者の爲に祈ら

ば赤心より出る温情を以て其名を呼上げつゝ、（一） 須く全心を傾けて之が爲に祈れよ。己若くは他人に屬神的の賜を賜はらんこと若くは己若くは他人の災厄若くは罪愆惡癖等より救われんことを祈らば熱心己若くは他人に其求むる所の幸福を賜はらんことを望み自ら罪と愆と惡習慣を棄て若くは他人をして之より救脱せしめんと欲する半平たる決心を懷き全心を傾けて祈れよ。然らば主より汝の心に應じて汝に賜はらん。凡そ望む所を求めよ。然らば爾等に成らん。約翰十五の七。視よ汝の求むる所のものは必ず先づ之を望まざるべからず。之を望むに於て始めて受くるを得ん。爾等互に祈れ。瘻されん爲あり。雅各五の十六。

○汝須く救主の爾等の中に大ならんと欲する者の爾等の役者と爲る

べし。馬太廿の廿六と云へる言を記憶し、毫も煩悶若くは憤激の念を挿まず。乃ち心と言と行の上に順従を旨として常に衆人に役せよ。

○主が何の時に於ても汝の爲に万事たりと確信せよ。祈禱の時に於ては彼の汝の爲に能力及び聖神に於て汝の總ての言を成す者たり。敬虔の談話を爲す時に於ては彼は汝の活水。汝の言の火の流なり。總ての時に於て彼は汝の爲に有らゆる善なり。主と偕にせば憂ふる勿れ。彼は汝を四方より己の裡に圍み普く汝を貫き、汝の意思需要意嚮を悉く知る。汝若し信と愛とを以て彼に立たば如何なる災も汝に來らざらん。主は近し何事も慮る勿れ。腓立比四の五六。

○神は獨り有る者在らざる所なき者。單純なる者なるを以て一瞬間に

創造變化するものとエギプトの奇跡の如くするを得ん彼は單純なるを以て其の爲す所單純に全能者なるを以て爲す能はざる所なし。

○主人的若くは寧ろ金錢上の傲慢と解すべからざる憎惡の情に由りて吾人は吾人の養ふ者の言を聞くを欲せず爾等の中に大からんと欲する者は爾等の役者と爲るべし(馬太廿の廿六)と云へる主の言に循て自ら彼等の役者と爲り彼等に對して謙遜し主の至微なる兄弟に對する務を以て彼に誠實僞善的ならざる奉事を爲し以て主宰の賜を倍加するの代りに之を仇敵視すること往々之ありア、溫柔にして心の謙遜なる造物主施生者吾人の贖罪主養育者及び守護者主イエススよ願くは爾の爾の聖神を以て吾人に教ふるに愛と溫柔と謙遜とを以てし

此の爾の愛する諸徳に吾人を堅め爾の豊富なる賜に由り吾人をして慢心を起さしめず吾人をして吾人が他人を養ひ之を飽足らしめ之を保護すと思はしむる勿れ爾は万民の一般の養育者にして万民を養ひ萬民を飽足らしめ萬民を守護す萬民は汝の仁慈鴻恩慈憐の翼の下にありて満足安慰するものにして吾人の翼の下に在るものに非ず何となれば吾人は自ら生涯時々刻々爾の羽翼の陰に隠るゝの必要あれなり我等の目は僕の目主人の手を望み婢の目主婦の手を望むが如く爾我等の神に傾注し其我等を憐むを俟つ(聖詠百廿二の二三)アミン。  
○凡そ言の元は神言にして三者に於て叩拜せらるゝ我等の神の自ら父言聖神てふ三の言若くは名稱にて言顯はさるゝを記憶し凡そ言に

は存在必之に伴ひ若くは言は即ち存在及び事實たるを得べきを記憶して總ての言就中祈禱の時發する所の言の必ず實行せられんとするを確信せよ。凡そ言語は深く慎みて之を重んぜよ。神の箇位的言なる神子が常に父及び聖神と合する如く聖書の言若くは祈禱若くは賢明なる諸父の書にも至高の知識たる父彼の造化的の言及び成全者たる聖神が其の在らざる所なき性質に由りて于與することを記憶せよ。故に如何なる言と雖も空言たるものに非ず必ず其効力を有するか若くは之を有せざるべからざるものなるを以て空言漫語する者は禍なり彼等は其の空言の爲め神と對して答辨する所あらんとすればなり。神に在りて其の言ふ所能にざることなし。路加一の三十七是れ總体に言

の性質にして其の勢力及び成全なり。凡そ言は各人の口に於ても此の如くならざるべからず。

○凡そ異能奇蹟は聖神之行ふ。此の聖神に由りて或者に其能力を與へられ或者には能力の作用を與へらる。汝は只信仰を以て言へば可なり。其言の成るは汝の慮るべきことに非ずして聖神の爲す所あり。

○汝は常に神に在りて思想し感覺し發言し行動し作用するものにして彼の懐に在るものたるを確信せよ。曰く彼れ我に居り我も彼に居ると(約翰六の五十六彼は四方より汝を己の裡に圍み汝を貫き汝を知る。聖預言者ダイウド王曰く汝前後より我を圍み汝の手を我に置く)聖詠百三十八の五神の母も諸聖天使も諸聖人も皆神に在るあり。聖天使聖

人より近きものあるか信者たる「ハリストス・イエス」と交ること彼等より便なるものあるか汝須く信と望と愛とを以て萬物の主を始め彼の諸聖人を顧び以て神の前に己の爲め代求せんことを求め汝が生ける人と面々相對し己の爲め願ふことある如く天使及び聖人が汝の心に面々相對して在ることを確信し之に己の爲め神に祈らんことを求めよ。

○汝は常に神と與にせずんば己の靈魂の貧困盲目裸体にして神が汝の爲に萬事たるを思へよ彼は汝の公義成聖富有被服なり汝の生命汝の呼吸なり汝の爲に萬事たるなり。

○ハリストスの体血は眞に体血なり何となれば聖体聖血の最微の各分子にも各部を満すのハリストス神全体宿り居ればなり人間の身体に取りては然らずハリストスの体血には各部分一滴毎に決して分つべからざる完全唯一のハリストス居るなり。

○慈善とは何ぞ慈善とは敵を愛し詛ふ者を祝し我等を憎む者我等を虐ぐる者我等を放逐する者に善を施し窘逐する者を保護する等の謂也。

○神は己の造物就中有智なる造物の爲め其の鴻慈に於て最も動き易く最も傳通し易きものなり若し夫の空氣及び光は其の精微なるに由りて凡そ之を受くるに堪ふる者に傳通し易く動き易しとせんには萬物の主宰在らざる所なき至善無限全能の神ハ此の無神經無知物質的

の造物よりも無限に多く動き易く傳通し易き理なるに非ずや、ア、主  
 宰が信じて之を尋ねる者に與ふること何ぞ其れ至便なるや、風は欲す  
 る所に吹く爾其聲を聞けども其の何より來り何へ往くを知らず(約翰  
 三の八)若し人性にして傳通すとせんには況んや神性をや、若し父母た  
 る者天性不善なるも猶且其子に必要のものを與ふるとせんには況ん  
 や天に在ます爾等の父は之に求むる者に善き物を與へざらんや、馬太  
 七の十一)恵施を爲し共愛を行ふを忘るゝ勿れ互に共與を保て(希伯來  
 十三の十六)約翰前書一の七)

○汝屢聖機密を領するよ由りてハリストス汝に在らんには汝は全然  
 ハリストスの如くなれ即ち溫柔謙遜恒忍博愛此世の事物に對しては

冷々淡々として天上のことを思念し從順機敏なれ必ず彼の神を己に  
 有して驕傲ならず性急ならず此世の事物に戀々たらず吝嗇あらず強  
 慾たる勿れ。

○確然心の目にて神を直視し之を視る時欲する所のものあらばイ  
 ススハリストスの名に由りて求めよ然らば汝に成らん神は瞬く間に  
 汝の爲に万事と爲らん何となれば彼は單純にして時間と空間との上  
 に超然たるものあるを以て汝の信を起せる瞬間汝の心中彼と体合し  
 たる時に於て凡そ汝と汝の隣の救贖のものを汝の爲に成就し汝は此  
 時彼と誠實体合したる故に因りて自ら神性に與かるものと爲らん我  
 曰へり爾等神ありと(聖詠八十一の六)此際神と汝の間に懸隔なきが如

汝の言と實行の間にも懸隔なからん神言へば則ち成り命じて則ち造られたる如く(聖詠卅二の九百四十八の五言へば則ち直ちに行はれん。是れ機密に關して言ふものなれども總體屬神の祈禱に對して然るなり。然れども凡そ機密に於て行はるゝ所のものは皆司祭の荷へる神品の恩寵に由り至高の祭司長ハリストス其者に由るなり(司祭は其像を荷ふなり)故に司祭は假令其任に堪へずとも假令飲點ありども假令疑深く弱信若くは不信なりとするも神の機密の直に瞬く間に於て行はるゝなり。

○己の個位的言に由り吾人の智識と心とに(個位的の言に宿る聖神にて顯はさるゝ吾人の言に於て作用する所の神父は吾人の口より發す

る信仰希望溫柔相愛の言を以て創世より豫定せられたる吾人のハリストスに於ける更生成聖堅定靈的養育醫治等の奇跡的事業を瞬く間に假令此事業の豫備式は甚だ久しきに亘るに拘はらず——一たび永遠の爲め瞬く間に行ふ是れ神は單純全能の者なるがゆゑなり例へば麵包と葡萄酒のハリストスの体血に化するが如き此の餅を將て爾のハリストスの尊體と成し此の爵中のものを將て爾のハリストスの尊血と成し爾の聖神を以て之を變化せよと云ふの後直に行はるゝなり即ち此の言を誦し手を十字形に象どりて祝福するや餅と葡萄酒は直に化してハリストスの体血と爲るものにして其の以前に化するゝ非ず何とあれば神の全能は司祭の彼に相當する言を待つなり蓋し我等



の神の同勞者なり(哥林多前書三の九)此時主の名を以て十字形的の祝福を爲すは機密はイエススハリストスに由り彼の代求に由り神父の旨に由りて成るを示すなり。

○神の僕たる者は奉神禮并に機密を行ふに當り苟も思惟する所ありて之を言へば則ち其事の成るを確信せざるべからず吾人の願を爲し遂げ吾人の言に従つて何事をか造り若くは化すること主宰に取りて是の如く夫れ易し此の信認の汝に取りて容易自然たること猶空氣にて呼吸し目にて見耳にて聞くが如くなるべし汝は實に此の如くなること千たびも自ら己の身の上に實驗したり汝は言へば則ち成り命ずれば則ち顯へれたり(聖詠三十二の九と云へる言の間髪を容れずして

充分に眞實なるを實驗したり此の確信は須く汝の飲食汝の呼吸と共に汝に汲込まるべし。

○聖體禮儀は神の人類に對する愛の晚餐なり生者死者聖人罪人凱旋の教會闘争の教會皆聖孟に於て神の羔の側に集るなり。

○信者の爲には一も能はざる所の事なし動かすべからざる活信は瞬く間に大奇跡を行ふを得べし然れども吾人の誠實確乎たる信なくとも奇跡の行へることあり機密の奇跡是なり何となれば神の機密の其行へるゝ時吾人の信薄く若くは信なくとも常に行はるればなり吾人の不信は神の信を廢せず(羅馬三の二三)吾人の憎悪は言ひ盡し難き神の仁慈憐憫を壓する能はず吾人の愚は神の睿智に勝たず吾人の荏弱

は神の全能に勝つ能はざるあり。

○教會は永遠の眞理なり何となれば眞理たるハリストスと合し眞理の神にて鼓舞せらるればなり我恒に爾等と偕にして世の終末まであるなり(馬太廿八の廿使徒曰く教會は即ちハリストスの体なりと)哥羅西一の廿四

○汝諸の不義に充盈する者は須く人々より諸の不義理を受け以て此世に於て神の公義の審判(羅馬二の三参照)の汝に顯れんことを期すべし汝は己の主及び汝の隣を量る所の量を以て汝も亦量られん(馬太七の三)汝の常に偉大の義人神の子イエススハリストスを以て己の模範と爲せ彼は正義を持して人々の彼に加ふる諸の不義を忍び十字架に

擧げられ最も耻づべきの死を以て殺されたり。

○汝人の品行を譴責するに當り人汝を憎むも心に憶する勿れ憂悶する勿れ乃ち人汝等を憎む時は爾等幸福なり(路加六の廿二と云へる救主の言を記憶して寧ろ喜べよ。

○人は家を建て、之に住み獸類は穴を掘りて之に棲み鳥は巢を作りて之に己の雛を生み蜂は蜂巢と蜜房とを作り之に棲みて蜜を製し蛛は網を張り自ら之に棲みて食物を捕ふ造物主豊己の爲め手にて造られざる家なる己の体を造ること曾て童貞生神女の腹中に之を造りしが如く今又己の体の殿を施生的の機密の中に造るが如くせざらんや有形若くは有形且屬神的なる造物の爲め肉体の家を造り今又恒に

之を造る者は彼れ造物主に非ずや。

○神品若くは凡そ聖人なる者は皆是れ恩寵の水を他の信者に注ぐの貯水所なり其腹より活ける川の水は流れん(約翰七の卅八)

○屢次父と子と聖神の至聖なる名を連唱する司祭の口は如何に清淨屬神的ならざるべからざるか更に此の至尊至美尊崇すべき名の眞味を己の裡に容れて之を味はんとせば其心如何に屬神的且清淨ならざるべからざるか司祭たる者肉体の娛樂を避け以て聖神の居らざる肉体と爲らざらんことを努むるの切要なる所以以て見るべし司祭たる者は絶えず惟一の主を以て樂みと爲し以て主より己の心の求むる所を得んことを努むべきものなるに豈肉体の娛樂に耽るべけんや彼に

は靈魂若くは肉体の種々の荏弱を告白する屬神的孩子甚た多く誠實之に同情を表して懇切正確の教訓を垂れ毎日熱涙を以て主宰の前に彼等の爲に祈り無形の狼をして之を襲ひ之を散せざらしめ主の佑助に由て其行と信と屬神的知識の發達せんことを求むべきもの豈肉体の娛樂に耽るの暇あらんや司祭たる者は斯く屢々聖堂に於て奉事と行ひ主の寶座の前に立ち屢神聖奧妙なる聖體禮儀を行ひ天の不死施生的機密の執行者及び于與者と爲り又屢其他の機密祈禱を行ふもの豈肉体の娛樂を事とすべけんや肉体の娛樂を愛する心は神に忠からざるあり爾等は神と財とに兼ね事ふる能はず(馬太六の廿四)

○爾等其果に由りて彼等を識らん(馬太七の十六)主の体血の至聖なる

機密たる聖體禮儀の甘美至福施生の果に由りて其神より出て聖神の諭す所のものなるを識り此の至聖なる施生の神が其の諸の祈禱と神聖の儀式とに躍如たるを識らん此の聖體禮儀は奇々奥妙の活木なる哉其葉如何に其果如何ぞや嘗に其果のみならず樹の葉すら諸民を醫す(黙示録廿二の二)神聖なる聖體禮儀に敬虔にして與かるよりして誰か靈魂の大益を受けず心に安和と甘味とを感せざるものあらんや而して善き果を産する者は亦必ず自ら善きものたるべし是れ事物の法あり造化の法なり。

○懶惰を以て心を衰弱せしめ之と共に靈身の悉くの勢力を衰弱せしむるは是れ悪魔の最も強き奸計の一なり心に信望愛の涸るゝ時は不

信の徒と爲り憂悶鬱々神と人とに對して無感覺の人と爲り無味の鹽と爲るなり。

○爾は只誠心祈禱して求むる所のものゝ需用を感じ凡その賜は善美完全にして皆神より出て人々より出るに非ず僥倖より場合より運命より生ずるに非ず主宰は汝の需要汝の心汝の意思の動作を一々見聞し彼は至仁全能睿智にして己の意思の惟一の動作にて己の聖神に於ける子に由りて瞬く間に汝の爲に必要のこゝろを行ふを得て汝は悉く之を受くるを得べきを誠心確信せよ假令人に取りては能くせざる所多しと雖も神に在りては然らず神には能くせざる所なし(馬可十の

○凡そ祈禱に於て望むとは神の實在と其聽納るゝを信じ神を畏るゝの心を以て懇求感謝頌讚の辞を唱ひ其の聽納れられて成就する事は毫も之を疑はず主宰の必ず之を聽きて己の在天無形の祭壇に受け至仁睿智全能者たるを以て我等の母たる教會の望に依り(若し吾人教會に代りて祈らば)并に吾人の心の望に依りて求むる所のものを賜ひ且或ハ吾人の求むる所若くは了解する所のものよりも多く賜はんとするを確信するの謂なり然れども飲食に戀々として飽足るを知らず之にて嬌癡されたる心并に嫉妬讎念の伏在して吝嗇利慾怨恨に束縛せらるゝ心は其の病根を棄て自ら悔改するに非ざる以上は此希望を懐かざるなり。

○吾人は十字架を畫くに方りて三指を組合せ十字架の上端を非造の智たる父を象どりて額に當て下端をば世々の先より父の腹より生れたる子を象どりて腹に當て而して後之を兩肩若くは臂に當て以て主の臂誰にか顯れたり(約翰十二の卅八又以賽亞五十三の一参照と云ひ或ハ主の手我が上に在り(以西結三の廿二)と云ふ如く主の臂若くは主の手たる聖神を象どる猶此外人間に聖三者の象あり即ち思想的の智は神父の像智の居りて己を象どる所の心は神の個位的睿智なる神子の像意思と心とに在る所のものを出す所の口は即ち聖神の像なり氣を嘘きて彼等に謂ふ聖神を受けよ……(約翰二十の二十二)心より惡念姦淫邪淫褻瀆等の出るは(馬太十五の十九)是れ人の心中に巢窟を構ふる

悪魔の出す者あり而して善き人が其心の善き寶庫より善き者を出す  
 は(路加六の四十五)是れ聖神の子を経て父より出るの象なり偉大なる  
 哉人間我曰へり爾等神なり爾等皆至上者の子なり(聖詠八十一の六)若  
 し神の言を奉せし者を神と名づけ而して聖書廢する能はずば即ち其  
 言ふ所確乎不易なりとせんには(爾等は父が成聖して世に遣はし、者  
 に其の我の神の子なりと云ひしに因りて爾濱すと曰ふか(約翰十の卅  
 五、卅六)と云ふもの偶然に非ず嗚呼人間の尊貴威嚴大なる哉人間就中  
 コハリステイアニンを見ば之を神の子と見做し神の子として之を受け之  
 と談じ之を遇するに我が主ハリストスイイスに於ける恩寵に依る  
 神の子として遇せよ。

○曾て甚だしく胃の焮衝に惱める人あり臥蓐九晝夜藥餌其効を奏せ  
 ず危篤に迫りたるに九日目の朝施生の機密を領するや其日の黄昏に  
 至り身体健全に復して病蓐より起てり是れ篤き信仰を以て領聖した  
 るに依るなり予は主に彼の病の愈されんことを祈りたり予は曰へり  
 主よ爾の僕の病を愈し給へ彼に之を賜ふに至當なり蓋し彼は爾の司  
 祭を愛して之に其財を贈れりと予は又聖堂に於ても主の寶座の前に  
 立ちて聖體禮儀の後我等に此公同和合の祈禱を賜ひ云々(第三偈和詞)  
 と誦する祈禱の時并に機密執行の前に祈りたり予は祈る中よ左の如  
 く曰へり主我が生命よ我が醫治のことを思念するの易きが如く爾は  
 諸病を愈すこと容易なり我が死より復活のことを思惟するの易きが

如く爾は死者を復活せしむること容易あり故に爾の僕ワシリイを猛烈なる病より愈し之を死せしめ其妻子をして慟哭せしむる勿れど是に於てか善く聞き納れ給ふの主事は憐れられたり此時彼は實に生死間髪を容れざりき主よ爾の全能仁慈と其の善く聞き納れ給ふことに光榮を歸す

○一秒一瞬間に善或は惡に信或は不信に率直と狡猾に愛情と媚嫉に好意と怨恨に鴻慈と吝嗇に貞操と淫亂に心機の変轉すること幾回なるを知らず嗚呼反覆如何ぞや嗚呼危險幾何ぞ警醒注意を要すること大ありと謂ふべし。

○飲食の佳きに由りて汝の氣色美はしき時喜ぶ勿れ何となれば此の

如き時は汝の靈魂の内部の氣色の醜陋死に近くして救主ハリストスの言能く汝に適すればなり曰く爾等は白く塗りたる壁に似たり外は美はしく見ゆれども内は骸骨に充てりと馬太二十三の廿七即ち偽善と諸惡とに充つるを謂ふなり。

○嗚呼主宰イエスよ爾は我が輕忽に罪惡にて傷められたる人性を改新したること幾回ぞ其回数と量とに限なし爾が我を我が内に燃ゆる爐より救ひ出し種々の情慾の爐より憂鬱失望の淵より我を救ひ出せしこと幾回ぞ我の信を以て顛び上ぐる汝の一の名にて汝が我が心の腐敗を改修したること幾回ぞ汝が施生の機密を以て之を實行せしこと幾回なるを知らずア、主宰よ爾の我罪人に對する矜恤の實に限

なし我の生命及び我の安慰たるイイススよ爾の我に垂れ給ふ無限の恩恵の爲め我何を爾に献り何を以て爾に酬へんや我は爾の恩寵に由りて我が道に注意を怠らざらん何となれば爾は我祖ダウイードの口を藉り聖神にて言ひし如く道に注意する者は爾の悦ぶ所なればなり(聖詠百十八の一十七の廿一等参照)我は能く爾に忠實の者と爲り謙遜溫柔の者と爲り性急ならざる者惡意を挾まざる者恒忍の者勤勉倦まざる者慈善家矜恤者清廉者順從者たるを努めん。

○施濟は若し其心を驕傲憎惡嫉妬安逸懶惰貪食荒淫詐偽欺騙及び其他の諸罪より矯正して之を行ふ時は美事にして救贖に益するものなり只若し施濟を之れ恃みて己の心を矯正する事を慮らずば其施濟を

りして益を受くること少し何となれば右手にて造りつゝ、左の手にて破壊するに等しければなり。

○パウエル及びオリガの二嬰兒は主宰の無限の仁慈と我が不當の祈禱とに由りて之を縛りたる病の神より醫されたり小兒パウエルの病は全癒して安眠し女兒オリガは心氣安慰を感じ其澁面の變じて快活と爲りたり予は希望の辱められず叩く者には啓かれ我の不正的懇求の爲めなりとも主宰の我に我が求むる所のものを與ふべきを信じ膽大の希望を懷き九たび往きて祈禱したり若し不公平ある審判官すら遂に之を煩殺したる婦人の希望を満足せしめたりとせんに公正不偏なる万民の審判者は我が無罪の小兒に關する罪なる祈禱を聽納れ我が



勞と我が歩行我が祈禱の言我が叩拜我が懇請我が希望を願み給ふべしと信じたり。主宰果して此の如く行ひ我れ罪人を羞め給ひざりき。予が十回目に往きし時小兒は健かありき。是に於て予は主宰と迅速なる庇護者(生神女)に感謝したり。

○願くは皆一と爲らん父よ爾が我に在り我も爾に在るが如く願くは彼等も我等に在りて一と爲らん(約翰十七の廿一)吾人をして神と隔離せしめ又互に相反目せしむるもの何物ぞ。金銀飲食—此の塵埃此の腐敗此の臭膿なり。何故に然るか他なし「ハリストスティアニ」の神に對する活希望あきが故あり吾人は人間の眞誠の生命なるもの神と鄰に對する愛なる所以を知らず若くは此道理を忘る、なり吾人は生命を塵

埃に在りしも之を恃みとして在天の父に對し「ハリストス」に於ける彼の子として當然爲すべきが如く凡ての希望と凡ての憂悲を彼れに一任し以て當然彼に歸すべきの榮を歸せず我若し父たらば我が榮安くにあるや(馬拉基一の六)汝等の我に對する希望安くにあるや(爾等の我に對する愛安くにあるや(塵世のもの朽つべきものに對する冷々淡々たるの情と在天のもの屬神的のもの永遠のものに對する全幅の希望とは安くにあるや。

○我れ生活する間は肉体は我がものなり何となれば我が靈之に住めばなり、されど我死するに於ては肉体は既に我がものにあらず乃ち神のものなり地のものなり地と之に滿る者皆主に屬す(聖詠廿三の一)爾

の塵なれば塵に飯らん(創世記三の十九)我が体(からだ)を食(た)ひ我が血(ち)を飲(の)む者  
(約翰六の五十四)と云ふの言(ことば)の亦(また)是(こゝ)れ我(われ)自(みづか)ら領(りやう)聖(せい)の此(こゝ)二品(にひん)たる体(からだ)と血(ち)  
とに全(ぜん)体(たい)存(ぞん)在(ざい)し彼(かれ)等(ら)は我(われ)と密(みつ)着(ちゃく)する故(ゆゑ)に由(よ)りて我(わ)がも(も)のた(た)ること猶(なほ)  
人(にん)間(げん)の肉(にく)体(たい)及(およ)び血(ち)の之(これ)に住(すま)うする人(にん)間(げん)の靈(れい)魂(こん)と合(あ)するがとどし何(なん)と  
なれば靈(れい)魂(こん)は全(ぜん)然(ぜん)体(たい)血(ち)を透(と)徹(てつ)すればなり。

○死(し)の我(わ)が心(こゝろ)に人(にん)間(げん)の肉(にく)体(たい)にも其(その)端(たん)を傳(た)へたること幾(いく)回(かい)あるを知らざ  
るも主(しよ)は其(その)致(ち)死(し)の事(じ)件(けん)より我(われ)を救(す)ひ言(い)ふべからざる矜(きん)恤(じゆ)を以(もつ)て我(われ)  
を憐(あは)れ我(われ)を蘇(そ)生(せい)したりア、我(わ)が心(こゝろ)に如(い)か(か)に深(ふか)く主(しよ)に對(たい)する感(かん)謝(しゃ)の情(じやう)  
を満(み)たすべきか若(も)し主(しよ)我(われ)を助(たす)けざれば我(わ)が靈(れい)速(すみ)に黙(もく)すの地(ち)に移(うつ)住(す)ま  
ん(聖(せい)詠(ぎよ)九(く)十(じゆ)三(さん)の十(じゆ)七(しち))

○我(わ)が肉(にく)体(たい)の疾(しやく)病(びやう)に罹(か)る時(とき)は憂(い)悶(もん)鬱(うつ)々(じやく)首(く)を俯(うつ)か(か)しめ壯(さう)健(けん)にして肉(にく)体(たい)  
の樂(たのしみ)に耽(たふ)る時(とき)は心(しん)氣(き)快(くわい)然(ぜん)手(て)の舞(ま)足(そく)の踏(ふ)むを知らず殆(たいてい)んど狂(きやう)せんとす、  
肉(にく)体(たい)の欺(き)慥(ざん)的(てき)感(かん)情(じやう)に意(い)を注(そ)が(が)ず概(がい)して肉(にく)体(たい)の遊(あそ)戯(ぎ)肉(にく)体(たい)の狂(きやう)喜(ぎ)を蔑(あは)れ  
せざるべからず乃(すなは)ち毅(ぎ)然(ぜん)として肉(にく)体(たい)の憂(い)悲(ひ)と疾(しやく)病(びやう)とを忍(しの)び精(せい)神(しん)を以(もつ)  
て勇(いさ)み神(かみ)に望(のぞ)み望(のぞ)むべきなり。  
○微(び)々(じやく)たる小(せう)事(じ)に不(ふ)忍(にん)耐(たい)を表(あらわ)し單(たん)に心(こゝろ)の不(ふ)忍(にん)耐(たい)に傾(かた)よ(よ)一(いつ)動(どう)作(さく)の己(みづか)に  
罪(つみ)にして内(うち)心(しん)直(ちやく)に處(ま)置(ちやく)せらるゝは何(なん)故(こ)ぞ他(た)なし小(せう)事(じ)に對(たい)する不(ふ)忍(にん)耐(たい)  
は大事(だいじ)に對(たい)する不(ふ)忍(にん)耐(たい)の定(てい)錢(せん)にして大事(だいじ)に就(つ)いての不(ふ)忍(にん)耐(たい)に導(みち)くもの  
なればなり何(なん)となれば人(にん)間(げん)の靈(れい)魂(こん)の單(たん)純(じゆん)のものなるを以(もつ)て心(こゝろ)の瞬(しゆん)間(かん)  
忽(たち)焉(ぜん)として罪(つみ)に傾(かた)よ(よ)の動(どう)作(さく)も亦(また)己(みづか)に罪(つみ)なればなり此(こゝ)の如(ごと)く凡(およ)そ小(せう)罪(ざい)

は大罪に導くものなるを以て常に其初に於て罰せらるゝものにして其初に之を撲滅せざるべからず爾の寡き者に於て忠なり我爾に多くの者を督らしめん爾が主の歡樂に入れ(馬太廿五の廿一)而して此の所謂多くの者の如何に大なるか神が彼を愛する者の爲に備へし事は目未だ見ず耳未だ聞かず人の心に未だ入らず(哥林多前二の九)

○汝祈禱するに當りては心にて充分祈禱の言の眞理若くは効力を感得せんことを努めよ之を不朽の食として己の心を養ひ露として己の心に飲ましめ恩寵の火として己の心を煖めよ。

○主は我が爲に万事なり彼は我が心の力我が智の光なり彼は我が心を總ての善に向け之を堅む彼は又善き思想を我に賜ふ彼の我の安慰

及び歡喜なり彼は私の信と望と愛なり彼は我が飲食我が衣服我が住所なり慈母が赤子の爲め智と爲り意旨と爲り視官と爲り聽官と爲り味官と爲り嗅官と爲り觸官と爲り飲食と爲り衣服と爲り手足と爲るが如く我にして全く主に己を委ぬる時は彼は我が爲に万事と爲るなり然るに惜哉我れ主を離るゝ時は惡魔我が裏に住む我若し我が心の目を主に向けず敵の壓迫に遭ふて主の佑助を求めずんば惡魔は時として之れある如く私の爲に總ての惡と爲るなり即ち憎惡と爲り憂鬱と爲り諸善を爲すに無力と爲り失望と爲り嫉妬と爲り怨恨と爲り吝嗇と爲り誹謗狡猾醜穢の思想と爲り万事に對する傲慢と爲り一言以て之を評すれば我が智と爲り我が意旨と爲り我が視官聽官味官觸官

及び手足と爲るなり。されば汝等須く主を恃めよ。彼は有る者にして神聖全能仁慈矜恤鴻仁睿智に於て無限の者なり。

○汝の肉体病に罹りて苦しむ時は汝の救贖の第一の敵は苦み病に由りて無力となるものと思ひ吾人の爲め十字架と死とを忍びたる主イエススハリストスの名に依り毅然として己の病を忍べ更に又己の病の皆罪の爲め神の加ふる罰ありと記憶せよ。凡そ病なるものは吾人を清め吾人を神と和睦せしめ吾人をして再び彼の愛に入らしむ。曰く爾の平和と爾の愛とを我等に賜へ。蓋し凡そそのもの皆我等に予へられたればなり。(聖詠九十の十五)と且つ病に於て主の汝と偕にするを記憶せよ。憂の時我爾と偕にす(全上)と云へばなり。又凡そ疾病は父たるの慈愛を

以て吾人を罰する主宰の招應に由りて來るものなりと記憶せよ。恙なき時に於ては確信しつゝ災厄の時に於て慎んで背くこと亦く致命者の如く信と望と愛とを堅守せよ。

○神は單純にして極めて完全なるもの。即ち純潔の神聖至淨の善と義なり。故に神と体合し神と一靈と爲らんとせば。蓋し吾人は彼より出たればなり。彼の恩寵に由りて善と聖と愛の完全なる純撲を求めざるべからず。天に在るの諸聖人は神子の血と聖神にて清められ罪の蔭をだに有せず。彼等の此世に於て自ら苦行し肉体にて苦みたる所以のものは己を凡そ肉と神との汚より潔くし神を畏るゝを以て聖を成し。(哥林多後七の二)以て永遠に彼の至福の者と体合せんが爲めのみ。今日

聖教會が其の諸の設備と共に世に存する所以神品奉神禮機密諸式の存する所以齋の存する所以のものも皆是れ神の諸子を清め之を聖にして聖三者に於て頌讚せらるゝ父と子と聖神の至福者と体合せしめんが爲めに外ならず。

○汝は主に求むるに死の如き篤き愛を以て主を愛し若くは彼の爲に死をも惜まざるに至らしめんを以てす試に思へ主は汝をして猛烈なる病に罹らしめ汝將に死に瀕せんとす時に汝主を恨む勿れ乃ち主が父たる慈愛を以て汝に臨みたるを感謝しつゝ毅然として之を忍べよ是れ汝が死の如く篤き愛を以て神を愛すと云ふ所以なり病の刺撃若くは瘡撃烈しき時若し神の旨に適はば神は雷に汝を病より救

ふを得べきのみならず汝を死よりも救ふの力ありと信せよ己の朽ち果つべき肉体の彼の爲に惜むなく愛することなく乃ちアウラアムが其子イサアクを燔祭に供へたる如く神の仁慈に對する信を失はず失望落膽せず神が恰も不公平に汝を嚴罰したるが如き思を懷き口にても神を誹謗せず自ら甘んじて全く己の肉体を以て汝を罰する主の旨に委ねよ然らば汝はアウラアム若くは致命者の如く神に大なる祭を献げん。

○我が意思と心に於て我を慰むる者は宜く之を帛に記して我が箴とし塵世の煩務匆忙中に於て常に我が心を慰むるものと爲すべし是れ果して何者ぞ活希望と奇々奥妙なる慰藉力に富むハリストス教的の

「主は我が爲に万事なり」との言是なり是れ眞に價すべからざるの寶なり是れ總ての情態に於て安穩たるを得べき寶にして赤貧猶富者の如く富有にして能く人に施し人と交りて和氣藹々之を有せば罪を犯すと雖も望を失はざるべし「主は我が爲に万事なり」彼は我が信なり我が希望なり我が愛なり我が力あり我が平和なり我が喜悦なり我が富なり我が飲食我が衣服我が生命なり一言以て之を云へば主の即ち我がすべてなり人よ此の如く主の汝の爲に万事なれば汝も須く主の爲に万事と爲れ而して汝の總ての寶は汝の心と汝の意思に包含し且神の子よ爾の心を我に予へ「箴言廿三の廿六」と云ひ以て汝より汝の心を求むるに由り善良完全なる神の旨を成し遂げんが爲め汝は己の朽ち

たる情慾誘惑的の意旨を一擲せよ汝の意旨あるを知らずして獨り神の旨のみを知り「我が旨成らずして爾の旨成らんことを」と云へ。  
 ○「ハリストイアニン」にして正義の事を行ふも毫も誇るべき謂なし何となれば「ハリストイアニン」の會て諸惡より救はれ且つ其の常に之より救はるゝ所以は唯一の信に依るものにして正義の事を行ふも亦其信に依ればなり蓋し爾等は恩寵を以て信に由りて救はれたり是れ即ち信其者爾等に由るに非ず神の賜なり行に由るに非ず人の誇るることなからん爲なり「以弗所二の八九」  
 ○吾人が立て熱心祈禱する間は心中安慰温乎爽快あり是れ吾人が神と偕にし神に居るが故なり而も祈禱より遠ざからば誘惑忽ち來りて

心中騒然たり。至幸幸福なる哉祈禱の時。

○神に對する愛の吾人に發現動作し始むるは吾人が隣を己の如くに愛し神の像たる彼の爲めに己を惜まず己の何物をも惜まざる時に在り吾人の力の及ばん限り彼の救贖に益せんと努むる時に在り神に悦ばれんが爲め己の腹と肉体の目及び神の智識に服せざる肉体的の智識を峻拒する時に在り見る所の兄弟を愛せざる者は焉んぞ見ざる所の神を愛するを得ん(約翰第一書四の二十)凡そハリストスに屬する者は肉体を其情及び慾と共に十字架に釘せり(加拉太五の廿四)

○凡そ欲する所のものあらば之を主に求めよ神父に對しては只望ひのみにて可なり造物者たる子と成全者たる聖神が常に父と偕にし之

に居るものと猶父の彼等に居るが如くにして彼等は常々全能至善なる父の希望を成就せんと欲すればなり何となれば彼等は仁慈と全能とに由りて彼と一体なればなり。

○主の賜は之を己の裡に抑止せずして他人に之を分注せざるべからず其模範は天然にあり夫の太陽は己にのみ光を抑止せずして地と月とに之を分注す就中牧師たる者は己の光否己の光と云はんより寧ろ神の光を己にのみ抑止せず乃ち己の智と識との光を豊かに他人に注がざるべからず。

○吾人の心中果して如何人の心腹を試むるの神(聖詠七の十)は凡そ吾人の心中を洞見し生涯の過半果して何事に拘束せらるゝかを明知

す主若し吾人をして人の心の奥裡を自棄せしめたらんには吾人の目  
の驚きで此姦淫好色竊盜妄證誹毀驕傲等の不淨不潔の巢窟より避け  
ん吾人は此中に何の醜事か之を見ざらん神の恩に背き神を忘れ若く  
は弱信に陥り此世の事物に戀々とし天のことを忘れ死後の運命を忘  
れ教會と其奉神禮儀式成規を度外視し信仰と教會の代表者たる神品  
を蔑視する等其目よ觸れざるの醜果して幾何ぞ。

○愛なくんば十字架を思念想像する能はず十字架のある所には必ず  
愛あり汝は聖堂に於て到る處凡ての物に十字架を見ん是れ汝等をし  
て汝等が愛の神の聖堂我等の爲に十字架に釘せられたる愛神子ハリ  
ストスの聖堂に在るを記憶せしめんが爲めあり。

○説を爲す者あり曰く祈らんと欲する意なければ祈る勿れと是れ肉  
体の狡猾なる思想なり一たび祈禱を中止せんか全く祈禱より遠ざか  
らん是れ肉体の好む所なり天國は今力を以て得らる馬太十一の十二  
克己善を爲すの意なくんば救われざるなり。

○人を教化薫陶するに當り心に意を注がずして理性と智のみを開發  
するに於ては其害や測るべからず心を最も注意すべきものなれ心  
は生命なり但し罪にて傷められたる生命なり此の生命の源を清め之  
に生命の淨火を點じ之をして燦爛として燃え消ゆることなく人間の  
總ての意思希望意嚮と其生命全体に向ふ所を知らしめざるべからず  
社會の腐敗は實にハリストス教的教育の欠乏に起因するありハリス



天「ア」ニシ「たる者方に主の何事を欲するやを悟るべき時なり他なし主  
 は吾人の清き心を有たんと欲するなり曰く心の清きものは福あ  
 りと(馬太五の八)汝等須く福音に於ける彼の快絶の聲に耳を傾けよ吾  
 人の心の眞誠の生命はハリストス是れなりハリストスは我の内に生  
 く—加拉太二の廿須く使徒の明哲に倣へよ信仰にてハリストスを心  
 の裡に住はしむるは是れ吾人の俱に偕に努むべき義務なり。  
 ○賜を取らんと欲する此手は胸に束ねられて何物をも取らず惡事に  
 歩むを好みて祈禱に立つことを好まざる此足は永遠に伸べ擴げられ  
 て己に歩むこと能はず好んで他人の幸福を嫉視したる此目は閉ぢて  
 其火は永遠に闇まり何物も之を眩惑することなく屢好んで誹謗譏詈

を聞んが爲に啓きたる此耳は死して轟々たる雷聲も其耳に入らず只  
 死者を復活せしむる喇叭の聲を聞くときは吾人の不朽の体は起ちて  
 或は生命の復活に出て或は定罪の復活に出でん(約翰五の廿九)死後猶  
 吾人の裡に生くべきもの畢生吾人の思慮を注ぐべきものは果して何  
 ど他なし吾人が今心と稱する所のもの即ち我が内の人我が靈魂是か  
 り此靈魂こそ吾人の最も慮るべきものなれ汝の畢生心を清め以て汝  
 の心即ち汝の靈魂をして後に至り神を睹るを得せしむべし身体と其  
 需要に至りては只其健康勢力禮貌を保つに足るだけ慮るべきのみ万  
 物皆死せざるなく地は已と共に万物を持ち往くなり汝等須く汝等を  
 して或の愛せしめ或は憎ましめ或は安穩ならしめ或は不安心ならし

め或は喜ばしめ或は悲ましむる所のもの即ち己の心若くは内の人即ち汝等の智を以て思想し判断する所のものを完全あらしめんことを努むべし。

○人々は此世に在る間施生者ハリストスを差措きて他に求めんとす是れ其の屬神的生命を有せざる所以是れ其の不信弱信貪欲嫉妬怨恨功名を貪り飲食を嗜む等の諸慾に耽る所以なり只生命の終焉に際して領聖に於てハリストスを尋ね而も之を尋ねるや焦眉の必要に迫り又ハ他人の行ふ習慣に倣ふものなりア、ハリストス神我等の生命と復活よ吾人が俗化眩惑したるよと其れ幾何を吾人若し爾を尋ね爾を己の心に有したらんには吾人の感如何ありしぞ爾を己の心に有する

者の味ふ所の幸福は舌能く之を言ふ能はず爾は彼等の爲め滋養の食物汲み盡されぬ飲料光彩陸離たるの衣太陽及び平和凡その知識に超ゆる者腓立比四の七言ひ盡されぬ快樂及び万事なり凡そ此世のものは爾に對して皆塵なり腐敗なり。  
○神は生かす者あり(約翰六の六十三)造物の造られし時より之を生かすことは主の神の爲す所にして創造即ち造物を無より有に化することとは神の子の所爲あり故にハリストスの體血も聖神に由りて麵包と葡萄酒より化せらるること猶至淨なる童女の胎中に於て聖神に由り同女の血より肉體を造られたる如し聖神は吾人の母の腹中に吾人を造る吾人の屬神的幸福は神の神に屬す。

○生命の國と死の國とは兩々相並んで行く予が茲に行くと言ふは其の屬神的なるを以てなり甲即ち生命の國の元首はイエススハリストスにして凡そハリストスと偕にする者は生命の範圍に在ること疑ひなし乙即ち死の國の首魁は空中の權を握るの王なる惡魔と其部下の惡神にして其數の多き遙に此世に生活する人間の數に超過せり此の死の子なる空中の王の部下は生命の子なる正教の「ハリステイニアン」通常に相闘ひ肉体の慾目の慾世俗の驕傲を以て—罪と犯罪は彼等の元質なるが故—罪を以て—吾人若し之を悔へすして彼等の味方となる時の—百方詭計を運して「ハリステイニアン」を己の味方に引入れんと努む夫の罪を以て日用欠くべからざるものも如く見做し惡を汲飲する

こと水の如くする者に至りて其靈魂に關し冷々淡々として生活する間惡魔の部下たるに由り惡魔は之を煩はさすと雖も一たび神に歸して己の故意的と故意的ならざるの罪を悔悟するや闘争忽ち燃起し撒但の群は蜂起して間斷なく奮闘す是に於てか生命の源地獄及び死の勝利者たるハリストスを尋ぬるの如何に必要なるかを知らん。

○凡そ憂悲懊惱は弱信若くは内心に潜伏するの或慾若くは無所不見者の獨り看る他の不淨より起るものにして即ち惡魔の其心に居りてハリストスの心に居らざるに起因するなりハリストスの靈魂の安慰自由及び言ひ盡されぬ光なり。

○空氣風の呼吸物質界に於ける遺物の呼吸は心靈界に於けるの靈及

び神の造られざる施生的の神其者に相當す故に神は又迅風の形に於て現はれたり(行實二の二故に救世主も神の神を信する者の靈魂に對する呼吸を以て風の吹くに譬へたり)約翰三の八參看物質界に於ては心靈界に適應するもの甚た多し是れ物質界は神の造る所たるに依るなり神なる造物主豈己の造れる造物中に幾分か己の像と類似の點を示さざるを得んや人間は獨り物質的の造物中に於ける最も高尚なる神の像なり。

○口の接吻の靈魂の接吻に適應す故に吾人の聖物に接吻するに當り口と靈魂と心にて之に接吻せざるべからず。

○主が己の睿智を以て己の言を以て物質界を統御すること奥妙全能

的なり獸類の体木草石等の部分は結合力にて保たると如く總ての世界は之に賦せられたる能力と法則にて保維せらるる靈魂が身体を抱持し之を生かすが如く神は己の聖神にて世界を生かしつゝ之を抱持す人間の小さい世界と稱せらるゝもの偶然に非ず嗚呼世界は神に取りて如何に微々たる蛛網なるよ我が身体は如何に微々たる蛛網なるよ而して物の一點毎に皆睿智の跡見ゆるなく万物只睿智と睿智の永遠の法則にて維持せらるゝのみ吾人万民の存在する所以のもの皆爾に依り爾の仁慈なる本原に依るのみ我が死我が腐敗若くは破壊は我の爾に於て如何に微々たる蛛網なるかを證して餘あり。

○爾生命の父生命の子生命の聖神恒に夫の情慾にて吾人の靈魂に加

へらるゝ靈的の死より吾人を救ふの神單純の者に光榮を歸す爾三位の主宰一たび爾の名を顧ぶに由りて我が靈身の暗黒の面を照らし之に賜ふに此世の總ての有形的の幸福と想像の上に出るの平和を以てする者に光榮を歸す。

○汝は生命の泉なる三者を顧びて絶えず祈禱し以て傲慢嫉妬憎惡怨恨吝嗇畜利慾食慾憤怒誹毀凌蔑詐僞譏誣等の慾をして汝の靈魂に攀ち入らしむる勿れ何となれば吾人の時々刻々之が綱の中を歩めばなり。汝の心の目は一時一秒毎に警醒怠るべからず汝の心の雷に白晝のみならず夜中にも聖書の言に従ひて宜く警醒をべし曰く我は睡れども我か心は醒むと(雅歌五の二)

○隣が神に對し若くは吾人に對して罪を犯す時こそ猶更深く之を愛せざるべからず何となれば彼は此時病に冒され靈魂の災厄に罹り危険に瀕する者にして宜く之を憐み之が爲に祈禱し藥劑たる愛嬌説諭譴責慰藉赦免慈愛の言を其心に適用せざるべからず爾等相赦すこと神はハリストスに縁りて爾等を赦し、が如くせよ(以弗所四の三十二)凡そ罪情慾争鬪争論の眞に是れ靈的疾病にして且斯く之を見做さるべからず更に言を換へて云は、凡そ情慾なるものは靈魂の失火にて内部の猖獗を極むる猛火地獄の淵より發する火なり之を消すには宜く憎惡及び其他の諸慾の地獄の火焰を消すの力ある愛の水を以てせざるべからず然るに吾人が更に地獄の火焰たる己の忿怒激怒を

以て反つて此火焰を増長し斯くして夫の常に諸種の情慾を以て人間に心靈的炎熱を燃起せんと努むる邪神の幫助者と爲るは吾人自愛心の然らしむる不幸災難と謂ふべし吾人自ら地獄の火を求む若し自ら悔て向後善を爲すに賢く惡に淡泊とならずバ惡魔及び其使と共に定罪せられて火湖の苦に投せられん夫れ然り故に吾人は己を惡に克たしめす乃ち善を以て惡に勝たん噫吾人は困苦の人なる哉吾人は何故今日に至るまで猶且諸罪を以て我が靈魂の大災厄と認め此災厄に陥りたる者に對し眞實愛を以て惻愷の同情を表することを學ばざるや吾人は何故之を避くること毒を避くるが如く蛇を避くるが如くせずして何故之を偏執するや吾人罪に陥るに當りて自ら己を愛惜するの念を起さざるは何故ぞ吾人を造りし主の前に涕泣痛哭せざるは何故ぞ。

○主が此世に於て諸慾をして吾人を翻弄せしむる所以は誠心此等の諸慾を惡み凡そ此世のものは假令如何に貴く且愉快なるも皆取るに足らざるものと爲し心を盡して靜謐と生命の源なる惟一の神を望み獨り之にのみ附着し獨り之を貴重なりとし其の聖旨と平和と喜悅とを尊重せしめんが爲なり。

○此世に於ては見る所として汝を憂悲せしめざるもの亦く皆汝に叛く親戚と云ひ朋友と云ひ知己と云ひ富貴と云ひ肉体の樂と云ひ汝の身体と云ひ皆汝に叛き天地間の五行たる土水火空氣光も亦皆叛く汝

須く獨り變易なく遷移の影もかく(雅各一の十七)獨り愛する惟一の神に附着せよ。

○激怒する人がその激しく長く怒りて具にその痛苦を實驗したる後處女の如く溫柔謙遜となるは人の知る所なり怨恨激怒に就て言ふ所のもの亦之を他の諸慾に適用するを得べし。主は自ら彼等の爲め彼等自身に彼等の苦惱の極度に於て其罰を示したるなり傲慢嫉妬怨恨吝嗇貪利等亦此の如くにして罰せらるる慾は各自己の窘苦者たると共に之に罹りたる各人の劊手なり。

○務めて衆人と和睦し亦聖潔を守れ蓋し聖潔に非ざれば人主を見るを得ず(希伯來十二の十四)朽つるもの遷移易きもの、爲め己の有罪な

る自愛心の爲め平和を破る勿れ平和を愛すること最も深く主其者の如くに愛せよ。且夫れ平和及び相互の愛より貴きもの世にあらざらん。吾人は平和を愛せん愛すべきものは只其れ平和なる哉平和ある哉。○人の靈魂は自由の勢力なり何となれば汝の之に與ふる方針如何に由りて或は善良の勢力と爲り或は惡勢力と爲ればなり。主全能の力よ我が荏弱なる靈魂を諸徳に堅めよ。主よ爾の誠の不動の石に諸善の爲に弱き我が心を堅めよ。主よ我亦日々爾に依らざれば一も爲すと能はざるを實地經驗す我爾に依らざれば如何ある善事をも行ふ能はず爾と偕にせざれば惡のみ種々の形に於て我に存す爾に依らざれば我の滅亡の子なり。ア、言ひ盡されぬ仁愛よ汝の仁慈を以て我が心に盈

てよ。我首として祈る願くは我をして全心を傾けて爾を愛し又我が隣を愛する己の如くせしめよ。我をして怨恨驕傲暴慢不遜ならしめず乃ち宜く温良恭謙人を敬愛し順従ならしめよ。アミン」

○悪魔と此世が神の教會なるハリストスの畑に己の稗を播くこと何ぞ其れ精密なるや神の言の代りに浮世の言空虚の言の熱心に撒かる。此世の聖堂の代りに己の堂世の空虚の堂なる劇場競馬場集會所等を發明し此世を愛する徒の受けざる聖像の代りに此世に繪畫及び寫眞の肖像繪圖及び其他種々の景色畫あり此世に於ては神及び聖人の代りに學士俳優誦歌者畫伯等社會の信用尊敬を博する名人を神の如く尊崇す。憐れなる「ハリステアミン」よ汝等全くハリストスより離れたり。

斯世に於ての心靈の衣服の外に朽つる衣流行の服及び光彩の燦爛たりと高價なるを以て世に稱せらるゝ種々の裝飾に其全意を傾注す。

○人間の疾病の時并に概して身体の羸弱なる時及び憂愁の時に於て神に對し信と愛とに熱すること能はざるは理の當然なり何となれば信と愛は健全なる心安穩なる心を要するものなるに憂愁疾病の時に於ては心傷めばなり故に吾人が疾病憂愁の時に於て當然に神を信じ之を愛して熱心祈禱すること能はざるは深く愛ふるに足らず万事に其時あり時として祈禱するにも不適當の時あるなり。

○汝は隣と交はるに完全の心即ち誠實と汝が己に對して有するが如き愛を以てすべし然らば汝の隣も亦汝を愛せん假令愛することなし



とするも汝の裡に汝の徳を尊び之を敬ふの念起りて自ら其徳の爲に熱中するに至らん。

○己の主人の食卓より惠まるゝ麵包の餘屑を以て口を糊するの乞丐は其餘屑にて口を糊するを以て誇るべきか然らば彼何を以て誇るべきかその貧困を以てせんか乞丐は是れ我れ主人は乃ち主にして彼の食卓の餘屑は總て恩寵的及び天然的の賜是なり。

○抑ハリストステイアニンたる人がハリストスに近き所以の兆とすべきものは果して何ぞ夫れハリストスに近き人の屢信と愛とを以てハリストスに向ひ屢其の快絶なる名を唱ひ屢頷んで其援を求め目と意思と心とを屢之に傾け而して神ハリストスは自然其言と眉目とに現はる

蓋し彼れハリストスと偕にせざれば無力にして不快なればなりハリストスに遠ざかる人は意思を以てハリストスに向ふこと甚た稀にして其の之に向ふや誠實の信と愛とを以てせずして只己むを得ざるの勢に制せられ且己の熟知せざる人に對する如く之と交はるも己の心喜ばず樂まず毫も己の愛慕せざる人に對する如し是を以て吾人は夫のハリストスに近き人々がハリストスを己の意思と心より放たずハリストスにて生活しハリストスは其呼吸と爲り飲食と爲り住所と爲り万事となりイイススハリストスの名の快絶なるとハリストスの恩寵を以て之と接觸する故に由りて彼等は己の全体を以て彼に附着し我が靈は親く爾に附く—聖詠六十二の九此の附着に於て己に取り世

の未だ曾て知らざる言ひ盡し難き幸福ありと爲す是れハリストスを  
 求めたる者と未だ之を求めざる者とを識別し得べき兆候なり。夫の未  
 だハリストスを求めざる者は誠實の信仰なくして此世に生活し俗事  
 に多く其思を潜め如何にして楽しみ如何にして甘く飲食し如何にして  
 衣服を飾り如何にして情慾を縦にし如何にして光陰を送るべきかを  
 焦慮し其光陰を利用するを知らず光陰は彼等を尋ねど雖も其の求む  
 る所を爲らず其目前に迅速に走り去りて日は日に継ぎ夜は夜と替り  
 月は月と代謝し年々歳々経過して遂に最後の恐るべき時至りて彼等  
 に宣告するに至る曰く起てよ汝等の爲すべき事は終りたり汝等の光  
 陰は失はれたり汝等の諸悪は汝等の前に來り其全力を以て汝等に積

れ落ち其重さを以て永遠に汝等を壓伏せんと。

○快樂を求むるとは何の謂を働きを爲さんが爲に造られ無爲に安ん  
 ずること能はざる靈魂の内部の病める空所を満たさんとするの謂な  
 り。

○凡そ信仰に關する知識の汝に取りて常に新規のものたるべし即ち  
 常に同一の緊要と神聖と趣味とを有すべし。

○主は万物の完全なる領主及び命令者なり而して吾人は諸造物彼の  
 命令意旨に従ふを知る即ち天使と心にて思想する人間と地及び凡  
 そ其中にある所のもの地獄及び其中にあるもの皆然り彼天使に命ず  
 れば彼等速に往て彼の旨を行ひ之に更生したる人の守護者たるものと

を命すれば彼等の畢生之を守護して毫も其命に背かず彼天に命すれば天は或は雨露を下し或は雹雪を降し或は之を支ふ彼風又は水に命を下せば命の如くに行ひ彼れ火に命すれば火は其命を遵奉す彼れ木陽に命すれば或は蝕し或は凡そ日の下にあるものに其光を放ち之を煖め之を熱す彼れ地に命すれば地は諸種の植物をして芽を出さしめ其繁茂することを禁すれば忽ち止む水に無制限に地上に漲溢することを命すれば水氾濫して全世界の洪水となり風に命すれば吹き荒みて吾人の罪の爲に破壊力を逞うす彼れ海中の鯨に預言者イオナを呑むことを命すれば鯨之を捕へんとす魚に門徒の網を満たさんことを命すれば魚は造物主の命に従ひ争ふて網に入り死者に起つて蘇生す

ることを命すれば死は其人を離れて生命現出す病に病者を去るべきを命すれば病者起ちて壯健となり悪鬼に命を下せば唯命維れ従ふ主の名大なる哉主の名讃すべき哉主の名頌すべき哉彼は己の造物を己の意の如くに化するを得例へば水を化して血となり酒となり杖を化して生蛇となり爲し又之を化して杖となり或は杖を化して生きたる植物となり爲し人を化してロトの妻の如く柱となり爲す又主は己の愛するトリミフントのスピリドンの祈禱に由りて爲せし如く蛇を化して黄金となり爲し再び其黄金を化して蛇となり爲すを得然れども主の勢力権能の最も顯著なるは罪人たる人間を化して神聖選ばれたるの器となり爲し恐るべく墮落したる人を興起し腐敗したる人を復活更新し身霊にて死したる

人を蘇生し永遠の死に陥りたる人を永生に導き入るゝに在り。是れ奇蹟中の奇蹟にして主の造物に對する無限の仁慈と睿智と全能とを表彰するものたり。更に語を換へて云はんか彼自ら造物の始なき容るべからざる主たるに拘らず我等の救贖の爲に人と爲らんと欲して實際人と爲り言は肉體と爲りて我等の中に居り(約翰一の十四)人と偕に住みて罪の外總て人の如くなりき。神は肉體の人と爲りて天は之が爲に驚き地の四極は異とせり(イル、モス)彼我等と談話し我等に恩恵を垂れ無數の奇蹟を行ひ苦難を受けア、是れ奇蹟なり(死して)是れ大々的奇蹟なり(復活し)アダムに於て死せし我等を己と共に復活せしめたり。主よ爾の至仁神聖全能睿智なる機能を頌讚す。主よ請ふ我にも爾の奇異

なる能力を垂れ之を以て我が運命を量り我が自由に依ると自由に依らざるの罪知ると知らざるの諸罪を寛宥し常に我に爾の道を教へ爾の恩寵を以て斯道に我を堅めつゝ我爾の不當の僕并に爾の我を其上に立てし燈と爲し牧者と爲し師と爲し聖務執行者と爲したるの他人をも救ひたまへ。

○不死の飲食たる主の体血を食する時は感謝の心を主に捧げて曰へ主生命の麵包不死の泉よ爾に感謝す爾己の体血を飲食として我等に手へ我等をして預め此世に於て我等を清め我等を聖にし以て爾の永遠の國に入り永遠に爾の顔を仰ぎ見爾の幸福の生命に與かりて樂ましめんとするに因る主よ我をして只肉身の飲食のこのみ慮ら

るまどば是れ偶像崇拜なればなり。

○汝己の心を犠牲として神に献げ全く之を全能者に委ね己を捨て其の有罪なる發動たる憎悪嫉妬驕傲不順放肆怨恨人の幸福を嫉み其災厄を喜び吝嗇貪婪酒色に耽り窃盜欺騙懶惰等は悉く之を排し人の吾人を侮辱し吾人を激する時は絶えず克己仁を行ひ敵の爲に祈禱し溫柔謙遜人を嫉視せず誠心誠意他人の幸福を希望し鴻慈廉潔節制貞操施濟眞理公義勞働順從に己を強うるを努むべし殆ど吾人の天性の支肢と爲りたる如き諸慾爾等の地に在る肢体を殺せ—哥羅四三の六を制することは難しと雖も絶えず己を省み絶えず熱心祈禱したらんには節制と神の寵佑に由りて能く諸慾を制し之を根治するを得ん。

○二人或は三人の我が名に因りて集る處には我も其中に在るなり(馬太十八の二十二)二人或は三人の偕に集りて祈禱する者の前にすら予は敬肅す何となれば主の約に従つて主自ら彼等の中に在ればなり況んや多數の集會に對してをや予は大に敬肅す若し集會的祈禱にして和合一致したらんには(即ち我が名に因りて集りたらんには)其祈禱や効驗著るしく結果多からん。教會が使徒ペートルの爲め献げたる熱心の祈禱は忽ち神の寶座の前に透徹して主は己の使を遣はしイロドの殺害せんとししペートルを奇々奧妙に獄中より救脱したり。使徒パウエル及びシーラの協同一致の祈禱に由りて聖神より奇々奧妙の天佑之に降りたり(行實十二の五至十一同十六の廿六至廿六參看)

しめず之にのみ戀々たらしめず獨り爾に附着せしめよと汝朽つる甘味を食する時は主よ感謝して曰へ永遠無比此世の肉体上の諸の甘味に數限りなく超越する甘味不朽施生神聖靜穩輕快平和至樂無盡藏の甘味よ爾に感謝す爾が此の朽つる甘味をも我に予へ食ひ且樂ましめ聊かなりとも爾の如何に甘味にして爾が悉く甘味たり爾が悉く望むべきものたるを知らしむるを以て爾に感謝すと物質的の光に照さるゝ時は則ち曰へ没せざる快絶至樂の光よ爾は爾の近づくべからざる神光の象たる此朽つると雖も美ある光を以て我を照さしめ此物質的の光よりして絶えず思を爾永遠没せざるの光に向はしめ品行の清潔を以て爾至福の者を觀察するに至らしむるを以て爾に光榮を歸すと

又肺管に由り朽つる生命を保維する爲め絶えず吾人に必要なる快活爽涼の元素たる空氣を呼吸する時も復た思を施生的の主と聖神父子即ち吾人の由て以て生活行動存在する所の者に注ぎ其絶えず吾人をして呼吸するを得せしむるを感謝し肉体の空氣なくして生活する能はざる如く靈魂も聖神に由らざれば一瞬間たりとも眞實の生命にて生活する能はざるを知り端正の生活を爲して絶えず神と交通せんことを努めよ何となれば靈魂は神を離るれば死すればあり是の如く總て造物よりして絶えず造物主に思を注ぎ事毎に彼に感謝し如何なる造物にも戀々たらず如何なる造物にも神より重く事ふべからず何となれば造物に事へ若くは之が奴隷と爲ること此世の事物に戀々た

るまとは是れ偶像崇拜なればなり。

○汝己の心を犠牲として神に献げ全く之を全能者に委ね己を捨て其の有罪なる發動たる憎悪嫉妬驕傲不順放肆怨恨人の幸福を嫉み其災厄を喜び吝嗇貪婪酒色に耽り窃盜欺騙懶惰等は悉く之を排し人の吾人を侮辱し吾人を激する時は絶えず克己仁を行ひ敵の爲に祈禱し溫柔謙遜人を嫉視せず誠心誠意他人の幸福を希望し鴻慈廉潔節制貞操施濟眞理公義勞働順從に己を強うるを努むべし殆ど吾人の天性の支肢と爲りたる如き諸慾爾等の地に在る肢体を殺せ—哥羅四三の六を制することは難しと雖も絶えず己を省み絶えず熱心祈禱したらんには節制と神の寵佑に由りて能く諸慾を制し之を根治するを得ん。

○二人或は三人の我が名に因りて集る處には我も其中に在るなり馬太十八の二十二二人或は三人の偕に集りて祈禱する者の前にすら予は敬肅す何となれば主の約に従つて主自ら彼等の中に在ればなり況んや多數の集會に對してをや予は大に敬肅す若し集會的祈禱にして和合一致したらんには即ち我が名に因りて集りたらんには其祈禱や効驗著るしく結果多からん教會が使徒ペートルの爲め献げたる熱心の祈禱は忽ち神の寶座の前に透徹して主は己の使を遣はしイロドの殺害せんとしペートルを奇々奧妙に獄中より救脱したり使徒パウエル及びシーラの協同一致の祈禱に由りて聖神より奇々奧妙の天佑之に降りたり(行實十二の五至十一同十六の廿六至廿六參看)

○噫罪は是れ何たる暗黒何たる愚昧何たる荏弱何たる恐るべき致死の壓虐なるよ吾人は人の顔を見その美なる故に由り心中溢を行ふ吾人の我が風儀に従はず我が慾情に媚びず我が往々無罪に非ざる情慾に溺れたる心地に適せずとて人を憎むことあり容貌の美は果して邪淫の原因犯罪の因たるべきものなるか是れ豈斯く美麗に人を創造したる造物主に對して驚異の念を發するの因たるべきものに非ずや人が吾人の風儀若くは自己流の風習に従はず吾人の傲慢及び概して諸慾に媚びず吾人の心地に適せざるものは是れ果して其人を嫌惡するの原因たるべきものなるか各人に皆自由の意旨自己の性質自己の氣風自己の僻自己の慾自己の風習あるに非ずや吾人豈各人を寛容し各人

箇々の自由——夫の主自ら決して虐げざるの自由其者を尊重すべきに非ずや。

○傲慢の者の他人の前に謙遜せんことを促さるゝ時は心に快しとせず報讎の念深き人は其の人を赦免し人と和睦せんことを論さるゝ時は心は心に快しとせず利慾深き人は負債の支拂を請求せらるゝ時は心に快しとせず口腹の慾に溺るゝ者は齋を守るべきこと靈魂の救贖を慮るべきことを説諭せらるゝ時の心に快しとせず然れども斯る人々は宜く己の情を制し己の慾に克ち欣々然として福音の促す所のことを行はざるべからず然らずして悔ゆることなく懊むることなく自己の情慾に溺れたらんよは永遠に亡びんのみ。



○主よ爾の恩寵の力に光榮を歸す凡そ信を以て其力を領ぶ者に對しては何者たりとも罪の如何なる壓迫たりとも之に對抗する能はず手諸善の敵たる惡魔に壓迫せられ諸慾に誘はれつゝ己に十字架の號を畫き心竊に爾の恩寵の力には何者も對抗する能はずと云へば壓迫息みて心中の動亂憂鬱過ぎ去り靜謐安寧來りて之に代る主よ爾の能力に光榮を歸す。

○我は只證人のみ凡そ爾が我に告ぐる所を彼の前に證せんが爲なり(告解の際司祭の告解者に告ぐるの言恐るべき審判に於て司祭は救主の前に對し悔改する罪人の爲め其の果して何等の罪を痛悔し若くは痛悔せざるかの證人と爲るものにして痛悔したる者の赦さるべし然

れども他人が人を證するを要せざりき自ら人の中蔵を知れば亦(約翰二の廿五)云ふ如く神自ら万事知らざる所なきに其證人を要するは何故ぞ夫れ證人は神の爲め必要なるに非ずして吾人に必要なり吾人は司祭が天使と人々の前に對し吾人が己の罪を悔い自ら罪し罪を惡むの念を表して罪を犯さるべき半平たる決心を爲したることを證せば吾人の快や言ふべからず救主の使徒に述べたる言を記憶せん曰く爾等は我が爲の故に諸侯諸王の前に曳かれん證を爲さん爲なり(馬太十の十八)又曰く天國の福音は編く天下に傳へられん萬民の證を爲さん爲なり(馬太廿四の十四)

○主よ願ひく我に恩寵を賜ひ我をして己—即ち此のアダムの血

統の故に由りて我の承け継ぎたる悪魔に克つを得せしめよ新アダム  
 なる主イエスよ我を化して我を新人と爲し我をして爾を衣せしめ  
 よ。  
 ○凡の谷は填められ凡の山と岡とは卑くせられ曲れるは直くせられ  
 險しき平にせられん而して凡の肉身は神の救を見ん路加三の五六  
 谷とは謙遜の心山と岡とは卑くせらるるとは傲慢自負にして卑賤謙遜  
 の人を蔑視する者は卑くせらるるとの意なり實際果して是の如し主は  
 公義及び仁慈の精神を以て人間の心中に作用を及ぼし傲慢の徒は之  
 を屈するよ諸種の俗事疾病損失世人よりの凌辱を以てし謙遜の者は  
 之を高うす。

○佞人の吾人の大敵なり彼等は吾人の目を昏まし吾人をして我が一  
 大缺點を見るを得ざしむ故に吾人の完全に赴くの路を壅塞するなり  
 就中吾人にして自惚心深く遠識なき時に於て然りとす故に吾人に向  
 て媚言を吐くの佞人の常に其口を箝し若くは之を避けざるべからず。  
 佞人輩に圍繞せらるる者禍ある哉假令心に不快を感ずること亦さ  
 非ざるも直論正義吾人の弱點過失情慾失錯等を譴責する直言者に圍  
 繞せらるる人は福なり。  
 ○凡そ神に附着したる者は勢ひ必ず恰も天的に隣をも愛するに至  
 るなり何となれば隣は乃ち神の像にして且其の「ハリストス」たる  
 に於ては彼の亦神の子神人イエスハリストスの肢其の本肢たれば

なり蓋爾等は互に肢たり(以弗所四の廿五)我等は彼の體の肢にして彼の肉よりし彼の骨よりす(同上五の三十)而して神を愛する者は凡そ此世のものたる飲食快樂此世の美衣服榮達等に對しては冷々淡々たり蓋し二主に事ふる能はざればなり彼の心は主に附着し彼と彼に對するの愛とに吞込まれ神と合して一神と爲り凡そ此の世のもの此の世の美の主に於て彼の爲に滅盡したるものゝ如く彼の古き有罪情慾の心すら消え失せたるものゝ如し我が心消え失せたり主に附く者は主と一神と爲るなり(哥林多前六の十七)何となれば彼は神と體合するに於て啓發せられ在天在地の諸物の眞價を着破し就中此世の諸物の空且虚なると屬神的永遠の幸福の眞實にして無比に卓越せるを見る

なり彼は神に於て諸罪の清めと吾人の靈に賦與せられたるも而も失はれたる神聖平和輕快眞誠の自由聖神に由るの樂とを見たるなり彼は神に於て人間に相當の屬神的飲食屬神的快樂屬神的の光輝燦爛として皓々たること雪の如き服と其の永遠に見て恍惚樂まんとする得て形容すべからざる美と其の永遠に照されんとする得て近づくべからざるの光と靈魂に相當するの住所を發見し并に自らも聖三者の住所と爲らんとするを悟得したるなり。

○主よ我が心の獨り爾に附着し此世のものには何物にも戀々たらざらん蓋し此世のものに戀々たるに於てハ憂悲懊惱苦痛あるのみ此世のものは何物たりとも心に取りて貴しとせざらん乃ち獨り主を万物

の上に尊び凡そ天に属するもの及び神の像に由りて造られたる不死  
聰明自由の靈魂神の口の呼吸を尊ばん金銀飲食衣服官位勳章等を以  
て心の爲め此世の偶像とすることなからん吾人は須らく心を感はさ  
ざらんが爲め粗食を以て足れりとし只健康を保たんが爲め小食を以  
て甘んずべし。

○主は吾人の爲め十字架に釘せられたり故に十字架の効力を有する  
や猶夫の十字架の記號と異なるなくして施生的なり故に舊約に於て  
も十字架の預象は至大の勢力を有し蛇の懸けられたる木は蛇に咬ま  
れたる者の傷を癒しモイセイの杖にて書かれたる十字架は水を分ち  
モイセイの祈禱の時手を舉げて十字架を象どりたるの手はアマリク

を敗北せしめたる等牧擧に違わらず。

○食卓に坐する者例へば晩餐の時など飲食の樂み過ぎ去るや今世の  
生活は其の悉くの快樂歡喜憂悲疾病と共に忽にして過ぎ去るなり今  
世の生活は猶旭日の光に照されて消ゆる朝露のごとし故に天國に召  
を蒙りたるの「ハリスタニア」此世の旅客及び寄寓者たる者は此世の  
ものには決して意を注かすして惟一の神生命の源吾人の復活及び無  
終の生命に附着せざるべからず。

○人間の諸種の罪弱點情慾を見るに驚異と憎惡を以てすべからず何  
とあれば此等の者たる皆全人類の古來の誘惑及び弱點にして人間自  
ら己の力を以ては決して之を脱する能はず人間の救世主必要にして

全人類を救はんが爲に必要なるは仲保に非ず天使に非ず主自ら肉体を籍るの必要ありたればなり故に人間の情慾なるものは假令其の吾人に仕向けられたるものと雖も——例へば嫉妬怨恨傲慢吝嗇貪婪の如き——吾人は之を蔑視して之に罹りたる人に對して忿激せず主及び諸聖人の其敵を遇したる如く温厚以て之を遇し忠告勸諭と秘密の祈禱を以て其の心を動かさざるべからず「ハリストスティアニン」の世才なるもの即ち此に在るなり。

○汝は己の生活上の諸般の方法を以て絶えず在天の父を慰藉せんふとを努めよ即ち溫柔を以て謙遜を以て惡意を懐かざるを以て從順を以て節制を以て聰明を以て平和を好むを以て忍耐を以て慈憐を以て

誠實の友誼を以て各人に對する柔和を以て人を歡待するを以て万人の幸福を希望するを以て行爲の端正を以て心と品行の質樸を以て心中の意思の清淨潔白を以て慰藉せんことを努むべし神よ我等をして爾の旨に循て生活すべく啓發し且堅うせよ蓋し爾は我等の父にして我等は我が主「ハリストス」に於ける爾の子なればあり人よ汝罪と慾の荆棘の中にあるの心地如何にぞや彼等は欣んで汝を鞭撻す其結果果して快きかア、其の傷つくの何ぞ烈しきやア、其結果の何ぞ悲惨なるや而も時として其の初に諂辭を呈するの何ぞ切々たるや。○各人宜しく凡そ人間に其の動物的天性の外屬神的东西のありて動物的天性には其要求あり屬神的天性にも亦其要求あることを記憶

せざるべからず。動物的天性の要求は、飲食、安眠、呼吸、光、照、され、衣、を纏ひ、煖、を取る等にして、屬神的天性の要求は、思慮、感覺、談話、し、祈禱、奉神、禮機、密神の言に、薰陶、せらるゝを以て、神と交通し、相互の談話、慈善的、幫助、相互の訓誨、を以て、鄰と相交はるに在り、猶記憶すべきは、動物的天性の暫時的、經過的、朽壞的にして、屬神的生活の永遠的、不經過的、不朽なること、是なり、肉体は、雲煙一過すべきものとして、之を蔑視し、不死の物たる靈魂は、宜しく之を慮り、其救贖のこと、其啓發のこと、之を諸罪、諸愆より清むること、溫柔、謙遜、好意、剛毅、忍耐、神と人々に對するの從順、廉潔、節制等の諸徳を以て、靈魂を修飾せんことを努めざるべからず、主よ、凡ての人をして、常に之を記憶するを得せしめよ。

○主よ、爾の屬神的及び物質的の賜をして、我等の中よ、及び我等に無益ならしむる勿れ、乃ち宜しく之をして、救世的有益の作用を爲さしめよ。願はくは万人に斯く爲し給へ、主よ、願はくは爾の「タラント」は我等各人自己の働きに由りて増さんことを。

○奸譎、傲慢、尊大の人、之を視ること、恰も暴風の如くして、憤恚、驕傲、尊大を以て、之を辱かしむることなく、自ら平然たれ、敵は人間の情慾を煽起し、或は汝の心に、惡性質の種々の嫌疑、及び空想を起さしめて、故らに汝を激せしむ。

○激怒したる人の言は、意に介せずして、須らく其勢力に意を注げ、粗暴に聞ゆる言も、全く心の粗暴より出づるに非ずして、習慣に由りて出で

たること往々これあり人々若し吾人の言に對してハリストス教的の愛寛容温良恒忍の意なくして嚴格批評的の注意を加へたらんには如何ぞや吾人は恐らく疾くに死せざるを得ざりしならん。

○神聖選ばれたるの群即ち正教の「ハリストスティアニン」たる者は果して吾人の生活するが如くにして生活すべきものなるか吾人は果して信を以て歩むか神聖に節制的に生活するかハリストスの再臨を恐るべき審判を望んで生活するか永遠の苦を念ふて戰慄するか永遠の幸福を渴望するか反て浮世の生活に戀々たるに非ずやア、王たる司祭班聖ある人民神の業とありし民よ彼得前二の九宜しく深く己を顧みよ汝等より要求せらるゝ所のもの甚だ多し復活及び來世の生命に望を屬

する者果して此の如くに生活して可なるか己の偽りならざる眞誠の信仰の首(ハリストス)より來世の永苦の眞實疑ふべからざるを説かれ之が確乎たる證を受けたる者果して此の如くに生活して可なるか。○此世と此世の生活はハリストスの永遠の國に比すれば何ぞ其れ微微たるや而も吾人が此世に戀々とし靈魂の救贖永生のことを慮らざるの何ぞ其れ甚しきや。○美味美食と金錢は通常の塵埃よりも惡し何となれば通常の塵埃は身体衣服室内を填塞するに過ぎざるも美味美食と金錢は靈魂を填塞すればなりア、美味と云ひ金錢と云ひ將た衣服と云ひ之を蔑視すべきこと此の如し。

○吾人の生命は單純なり何とされば吾人の生命は單純永遠無原の者たる神の子イエスハリストスなればなり神の我等に永遠の生命を與へ而して此生命は彼の子に在り(約翰一書五の十一)吾人曷れど人々の中に美味美食に金錢に名譽に粧飾等に於て生命を求むるや此等心の生命なく憂悲鬱屈屬神的の死あるのみ吾人曷れど活水の源たる主を棄て、水を保つこと能はざる壞れたる水溜を掘るや(耶利米二の十三)吾人の醜態として徒に奔走するは何の爲ぞ吾人は美味美食を嗜み名譽に汲々として粧飾を事とするも其の歸する所果して如何是れ皆死するもの朽つるもの一時のもののみ死の權を握るの惡魔も亦單純にして吾人を捕へ吾人を傷つけて死に至らしむるの手段單純なり

り故に耳を鋭くし事物に戀々として之に傷つけられざらんも必要なり

○只動物的感情希望のみにて生活し安眠飲食を貪り美服を衣遊戯に耽り後復飲み食ひ且つ樂まんとする生活の風を避けよ此の如き生活の風は人間を俗世的のものとして遂に全く其の屬神的生命を亡すに至るなり而もハリステイアに在る者は此世に於ても在天的の者たらざるべからず悔改せよ蓋天國は遙けり(馬太三の二)ア、天に在ます我等の父よ吾人は益神の言を讀み家に於て聖堂に於て諸所に於て外面よりも心にて深く祈禱し神のこと創造のこと人間の目的及び預定のこと神の照管のこと贖罪のみと神の人類に對する言ひ盡されぬ愛



のこと種々の徳行を以て神を悦ばしめたる神の諸聖人の素行及び偉功等を思念追想し齋戒して己の良心を檢し誠實に且深く己の罪を悔ゆる等のことを怠るべからず。

○神の睿智仁慈全能の殊に顯著なるは主が我等各人をして吾人の立たんと欲すれば立つを得べき所に立たしめ神に善行の果を献じ己と他人とを救ふを得せしめ大罪人たる我等を化して救贖に導く彼の恩寵に従ふの義人と爲し滅亡より救ひ出して諸般の災厄より我等を救ふの奇々奥妙なるに在り。

○汝は他人の速に其過を改めんことを望み而も自から改めせして自ら他人の譽に倣ふに非ずや他人の罪と愆とに沈溺するものは是れ豈汝

に由り汝の自ら改悛せざるに由るに非ざるならんや。

○凡その事敵の教唆に反對して行へ彼我等を侮辱したる者を憎むべきを勧めば汝之を愛せよ罵る者を祝福し汝より取らんとする者あれば斥けず自ら喜んで與へよ笑へんと欲する時は泣け憂鬱心に起る時は勉めて心氣を快活にせよ嫉妬心萌すとき他人の幸福を喜べ反對不順の念起る時は直に服従甘諾せよ邪淫の意念醸す時は勉めて心の潔白ならんことに熱中しハリストスイイスに於て神聖にせられたる「ハリストティアニンの高尚の品格を想像し吾人の支肢は即ちハリストの支肢なるを思へ傲慢萌すときは謙遜し憎惡の念起らば殊更善良と爲り激怒せんとするときは力めて平静を守り吝嗇の念起るときは

慈善の情を發揮し放心する時の五官を外界より閉ぢて惟一必要のものを思念し疑惑弱信不信起るときは殊に強き信の佑助を求め奮新約の信仰若くは信者の龜鑑と信にて行はるゝ奇蹟等を記憶せよ此の如くにして空想者たる敵の術策に陥る毋れ何となれば凡そ情慾なるものは皆是れ彼の空想なればなり。

○汝若し祭日に於て怨恨驕傲貪婪嫉妬吝嗇不節制懶惰放心靈魂のと并に神に悦ばるゝことを慮らざる等の諸徳を棄て此等の罪に反對する諸徳及び其他の善行に修練したらんにいれ神の榮を輝かし靈魂の救贖の爲めに善く祭日を消光したるなり只若し祭日に於て己の慾と惡癖に耽りたらんに神を祭りたるに非ずして撒但を祭りたる

なり若し罪惡の諸業を棄てし神の爲靈魂にて復活し恩寵に依り更生して革新したらんには是れ善く日曜日を送りたるなり然れども若し心靈的に復活せず己の心より邪惡貪婪此世の事物に戀々たるの情を一掃せず天に對するの愛神に對するの愛天上の國に對するの愛義の太陽の日なる日曜日の預象する老いざるの生命に對するの愛を其靈に銘せずんば是れ惡しく且無結果に日曜日を送りたるなり。

○乞巧の日々汝を追跡す是れ神の矜恤の汝を追跡するに等し矜恤ある者は福なり彼等矜恤を得んとすればなり(馬太五の七誰か神の矜恤を避けんとする者あらんや。

○神の諸聖人は神の人類救贖の大偉業神の子の天よりの降臨其教義

并に苦と死と葬りと復活及び昇天の意義を解したること遙に吾人に  
優れり何とあれば彼等は畢生誠實に毅然として不屈不撓全心を傾け  
て己と他人の救贖の事業を行ひたればなり彼等は己并に他人を救ふ  
が爲に禁食祈禱警醒し力の及ばん限り勤行し行を以て言を以て智を  
以て筆を以て働きたり而も吾人は此一大偉業の眞價を解せず冷淡放  
心輕薄なり吾人現世の爲に心を勞すること多きに過ぐ而も其幸福の  
煙あるを知らざるなり。

○我が生命と凡そ人間の由りて以て生活しつゝある所のもの我が身  
靈の需要は皆之を舉げてハリストス神照管者治理者救世主に歸せん  
蓋し万事皆彼の手裡にあればなり而して自ら熱心彼の誠を遵奉せん

○主よ我をして一瞬間たりとも爾并に我の敵の旨を行はしむること  
なく乃ち我をして絶えず我が神たり王たる爾の唯一の旨を行ふを得  
せしめよ爾我が唯一眞誠の王諸王をして王たらしむる者我をして爾  
に順服し常に誠實に毅然として爾の前に敬畏するを得せしめよ來れ  
王我が神よ叩拜し畏れて彼に勤め戦いて其前に喜ばん(聖詠九十四の  
六、二の十一)。

○智と情と自由の天賜を如何に見做すべきか智は之を以て神の創造  
天啓照管の事業及び人間の運命よりして神を識るものとし心は之を  
以て神の愛彼の在天的の平和彼の愛の味を感得し隣を愛し歡喜と愛  
悲に於て健全の時と疾病の時と貧困の時と富裕の場合に於て得

意の時と失意の時に於て之に同情を表すべく自由は可及的多く善を行ひ諸徳に修練し以て神に百倍の結果を呈する方法及び利器として利用すべし。

○天に在るの諸聖人と地に在る眞誠の「ハリステイア」は皆一体一神なり(以弗斯四の四)是れ信者の祈禱の天に在るの諸聖人に聴納せらるること便利迅速確實にして常に聖人に祈るの其効ある所以あり然れども聖人をして常に便利迅速に吾人の祈禱を聴納せしめんとせば彼等と偕に神及び隣に對する信と愛の一神溫柔謙遜節制潔白貞操の神剛毅勇健正義を渴望するの神慈善の神地の神に非ざる天の精神を懷かざるべからず。

○己をば屬神的關係に於て人々より惡しきもの弱きものと見做し罪の爲に己を蔑視し己を惡め是れ敬虔且公義の所爲なり而も他人は之を寛宥し其の罪あるに拘はらず神の万民を敬愛すべきを命じたる故に因り又縱令彼等は罪過の傷を負ふにせよ神の像に由りて造られイヌスハリストスの支肢たるの故に因りて彼等を敬愛せよ。

○主は時として俄に物質的の裕なる賜例へば若干金を最も簡易ある仕事の報として吾人に遣ひし以て吾人が隣人の爲に費したる所のものに酬い總體神の不費にて吾人に己の仁慈の裕なる賜を予へ吾人をして夫の神に與へられたる吾人の所有物を取らんとする者に其賜を惜まらずして與へしめ互に敵視せず相愛和合して生活せしめんとす且隣

は假令吾人を剥奪するとも吾人は決して心を勞することなく泰然として隣の無禮を忍び侮辱に對する報復は之を主に一任せざるべからず主が泰然として己の肉体を十字架上に磔にしたるは汝の知る所なり是れ皆汝の爲め即ち汝に諭すに總ての不遇侮辱に際し溫柔無邪氣あるべきを以てせんが爲なり。

○神は仁なり至仁なり而して汝は彼の像なるを以て須らく仁なれ神は萬民に對して鴻慈あり汝も亦慈憐なれ隣に對して物質的のもの朽つきべものを吝むことは一大不幸至愚の事として之を避けよ。

○吾人の偶像は果して是れ何人なるか何物なるか是れ或人物と次に此世の生命なり即ち多慾且死すべき肉体と凡そ肉体の爲にする飲

食衣服粧飾勳章金銀家屋及び其裝飾等はなり夫の試惑者汝をして有形の事物に戀々たらしめ有形の事物食物金錢等に望を屬せしめんとする時は汝は毅然として心の目を無形永遠の事物に擧げよ首として吾人の生命の源たる無形永遠の神を仰ぎ見次に終なき無形の生命と義人の此世の生命の後に享有する永遠の幸福に心の目を注げよ試惑者汝に勸諭するに朽つべきものに於て生命を尋ねんことを以てする時は方めて朽ちざるものに於て生命を求めよ人間の不死の靈魂を度外視し汝の目を其肉体に拘束せんとする時は汝の殊更神の像に肖せて造られ神子の十字架上の苦難と死にて贖はれ永遠の幸福を嗣ぐ者と爲り神の義子とせられ聖神の殿聖神の新婦とせられたる人間の靈

魂に思想的の眼光を注げよ汝須く二心を避けよ即ち心をして神に附  
 着し併せて此世の事物に戀々たらしむる勿れ神と財とに兼ね事ふる  
 能はず馬太六の廿四惟一の神に附着し獨り彼に望を屬せよ何となれ  
 ば悪魔は二心たるべきを勧めつゝ自ら惟一分づべからざる吾人の心  
 を獨占せんとすればなり且夫れ神に附着することは常に善且幸福な  
 るも此世と此世の幸福に戀々たることは災禍にして痛苦憂悲屈辱た  
 るを記憶せよ蓋し斯世に戀々たることは迷謬且悪魔の精神あればな  
 り。

○凡と此世にあるものは皆其終あるものにして我が肉体も美食も衣  
 服も諸寶物も皆破壊すべきもの朽つべきもの滅盡すべきものなり。

れと神は永遠に生く我が靈亦宜しく之を記憶して一時的のもの朽つ  
 べきものを失ふことを以て憂とする勿れ乃ち宜しく永遠のもの朽ち  
 ざるもの即ち神のごとく其誠を遵奉すること愛の結合のごとく平和の情  
 態のごとく忍耐節制貞操物を求めざるご(獨り心の中に主を求むること  
 と)克己并に此世の美と快樂に對する冷淡獨り必要のものを求むること  
 と奸譎の徒を羨まざること惡を行ふ者を嫉まざること熱中すべし  
 須く汝の塵埃を一掃せよ美ひ勿れ怒る勿れ。

○主は吾人を己に附着したるに(ア、是れ至大の名譽及び品位なり)吾  
 人は罪を以て水と神にて我等を更生したるの主幸より離る主は其靈  
 魂及び神性と合したる己の肉と血にて贖實我等と体合するに(希伯來

二の十四吾人の慾と罪とに由りて神井に吾人の敵と親密に合体す。  
 ○吾人は人々と偕に祈禱するに方り時として己の祈禱を以て恰も鐵壁を破るが如く夫の俗塵にて頑固と爲りたる人間の靈魂をしてエギ  
 べト風の開黒諸慾の幽暗を通過せしめざるべからず是れ時として祈  
 禱するの甚だ辛きことある所以あり偕に祈禱する人々質樸なればそ  
 れだけ祈禱し易し。

○若し神は肉体にて此世に臨まず吾人を神恩に與かる者と爲さず親  
 しく吾人に如何に生活し何者を持みとし何事を望むべきかを教へず  
 吾人に他の完全なる永遠の生命を指示せず苦難を受けて死せず死し  
 て復活せざりせば吾人は猶世人の生活する如く大半此世の肉体的の

生活にて生活する或理由を有せしならん然れども吾人は今天上のこ  
 とを思念して此世のものは損となさざるべからず(腓立比三の八參看  
 何となれば凡そ此世のものは皆在天のものに比すべくもあらざれば  
 なり而も詐偽の父なる惡魔は救主の教及び彼の精神に反して吾人に  
 此世の幸福に戀々たるべきを教へ強て吾人の心をして情慾に溺れし  
 めんどす心は自然幸福を求むるものなるに惡魔は此趣向をして不正  
 の方向に傾かしめ此世の幸福なる富貴名譽を以て衣服家具什器車馬  
 庭園の美觀及び諸種の娛樂を以て其心を惑はさんとす。

○凡そ物品を失ふとあらば全く神の照管と主の旨と其事を一任し  
 敢て憂ふる勿れ又得る所あればとて喜ぶ勿れ乃ち獨り主を以て常に

汝の惟一の喜とし常に惟一の得とすべし。汝は全く彼に望を屬せよ。彼の汝をして貧困に苦ますして現生を過さしめ以て汝を己の永遠の國に導き入るゝの方を知る。憂鬱憤懣嫉妬吝嗇貪婪若くは金錢并に財産を貯蓄し以て多年の間之を保有し飲有安眠快樂に耽らんと欲する如き多くの憂慮煩悶は皆是れ神の照管を恃む心の薄弱なるより起るあり又之れを細かにしては例へば吾人の疎忽なるより或収入を失ひ又は高價貴重ものを紛失したる場合に於ける憂愁の如き神の照管を恃む心の薄弱なるより起るなり。又或物品を拾得し或い多額の収入若くは利益を得若くは有利の職を求めて歡喜の其度に過ぐるが如きも亦然りとす。吾人の「ハリストス・タイアニン」とし神の家屬諸聖徒と同邦の人(以

弗斯二の十九として我等の生命を以て諸の憂愁疾病悲哀歡喜貧富と共に悉く之を「ハリストス・神」に委託せん。

○彼は其臂の力を顯はし心の意の驕れる者を散らせり(路加一の五十一以下)彼の其臂の力を顯はせりとは即ち主が籍身に由りて我が救贖の敵の上に王と爲り王者の權を以て之に勝ち己の母を天の有力なる女幸と爲したりとの意心の意の驕れる者を散らせりとは即ち惡魔及び之を幫助する能力たる惡神等を十字架に於て敗り其群は散じたりとの意あり。權ある者即ち人類の上に王たりし惡魔及び撒但を位より黜け卑しき者即ち神の母と諸の謙遜ある「ハリストス・タイアニン」を擧げ飢ふる者即ち例へば夫の至聖にして恩寵に滿被する女幸及び其他の諸聖



人をして善きものに飽かしめ富める者即ち地獄の淵を富ますに其捕虜たる人間の靈魂を以てしたる悪鬼をして空しく返らしめ救主地獄に下るに及んで此等の靈魂をハリストスの國の光に引揚げたり。

○吾人は徒らに主を神と稱するに止まり實際は吾人に己の神あり、何となれば吾人は神の旨を行はずして己の肉体と思想の旨己の心の旨己の慾の旨を行へばなり我等の肉体飲食衣服金銀等は是れ我等の神なり。

○高尚緊要なる教理と至大の神聖あるに吾人が虚妄愚昧の想像に心を勞すること何ぞ其れ屢なるや人あり家若くは聖堂に於て主の聖像神の母天使天使長聖人の前に立ちつゝ時として祈禱の代り同時同所

は於て世俗の煩慮を悉く排棄するの代りに窃に收支の計算を爲し利益あるを預想して喜び利を失ふこと若くは企業の不成效を思ふて憂ひ靈魂の損得の如き固より念頭に置かず或ハ隣のことを悪く思ひ其弱點其慾を誇大にし之を猜疑し之を嫉み之を誹毀す若し聖堂に於てせば己の側に立つ者を見て此の如き想像を運らし又或はその衣服如何を評し其人の善惡を議し或は如何にして罪を送り何處に往き如何なる快樂を爲し若くは如何なる虚事に耽りて消光すべきか等の想像を畫く而して此事は至高在天的の聖體禮儀主の至淨なる体血の機密の行はるゝ時即ち吾人が全く神に思を潜め我等の爲に行はるゝ罪と永遠の詛及び死より贖ふ機密に全心を注ぎ主イエススハリストスに

於て我等の神聖とせらるゝ機密を熟考精思すべき時に於て履行はるるなり。嗚呼吾人微々と爲り虚と爲りたるの何ぞ甚しきや其原因安くにあるか。他なし己の救贖に意を注がず之を慮らず此世の事柄に戀々とし永遠を信ずるの薄弱なると若くは之を信せざるに因るなり。

○森羅万象と宇宙間の万物の驚くべきは秩序整然として運轉するは何故ぞ。他なし造物主自ら之を措置管理するに依るなり。造物の冠たる人間の天性の亂雜なるの何故ぞ。其生活上に不整齊醜陋の多きは何故ぞ。他なし人自ら己の造物主の旨と智とに由らずして自ら措置せんとすればなり。嗚呼罪人なる人間よ己を擧げて己の生命を擧げて悉く汝の主神に獻げよ。然らば汝の生命は悉く整々肅々旋轉して夫の己を

ハリストス神に獻げ日々吾人の模範として標示する神の聖人の如く美々たらん。

○汝は努めて自愛憎惡激怒惑亂の發動を制し以て常にハリストス教的の溫柔友情平和相愛を尊び且之を守れ。人汝の面前に於て不實のこゝを言ひ或は不當の要求を爲し或は侮辱の言を吐き或は憚る所なく汝の弱點若くは情慾——即ち汝が自惚に由りて其不正なる所以を自認せざる所のものを指摘する時は汝決して心を亂す勿れ激怒する勿れ。常に先づ虚心平氣に汝の敵の汝に言ふ所のことを熟考し己の言行を皆みよ而して若し公平無私に己の言行を考一考して其正しきを知らば良心に安慰して自ら黙し若くは靜に穩かに憎惡の念を挿まずして

其敵の言ふ所の不正不當なる所以を舉示し以て其言を意に介する勿  
 れ然れども若し敵の汝を誹責する所のものを以て至當なりと認め  
 自惚と傲慢とを棄て己の罪の赦免を請ひ將來悔改せんことを努め  
 よ吾人の率直開豁の人々に對し其の率直に吾人の非行を誹むるが爲  
 め激すること往々之あり此の如き人々若し侃々吾人の自惚心を直諫  
 せば之を重んじて赦免せざるべからず是れ銳利の言を以て心中の腐  
 敗を芟除し吾人の自惚心を激するを以て罪にて死したる靈魂に罪の  
 確認及び施生的反亂を起さしむる徳義上の醫師なり。

○天國は力を以て得らる而して力を用ゐる者は之を奪ふ(馬太十一の  
 十二)若し日々吾人を襲ふの慾に勝ち心の中に天國を求むるに力を竭

さずんば情慾は壓制強迫的に吾人を制御し恰も強盜の如く吾人の靈  
 魂に侵入せん此世の事物に戀々たるの情は益増長し在天の幸福を信  
 じ之を愛するの念は漸々に衰へ神と隣に對するの愛も亦然り心中の  
 平和良心の安穩は益薄弱と爲る吾人は須らく靈魂の救贖の事に力を  
 竭さざるべからず此世に之より貴きものあらざるあり此世のもの  
 は皆塵埃と見做し幻と爲し夢と爲し在天のもの就中主其者は永遠至  
 幸至福不變不易の眞理と見做すべし。

○吾人皆生命を愛し幸福の生活を爲さんことを慮るも其生命慾中に  
 腐敗す是れ何故ぞ他なし生命を求むるに其の當に求むべき處に於て  
 せざればなり。

○少年及び成年の輩よ汝等凡そ善の冥々裡に賞せられ凡そ惡の罰せらるる徳義法の絶わす世に作用しつゝあるを記臆せよ惡に伴ふものは憂悲及び心中の壓迫にして善に伴ふものは平和喜悅及び心中の閑裕なり此法は万世不易なり是れ不變不易至聖公義睿智永遠なる神の法なり善を行ふ者即ち此徳義法若くは福音の法福音の法も同く徳義法にして只之に比し完全なるものありと遵奉する者は必ず永生の賞を得之を犯す者若くは犯して悔いざる者の永苦にて罰せらるべし。

○夫れ神の有る者なり凡そ神聖有智自由の者は皆彼に在りて一あり父よ爾が我に在り我も爾に在るが如く願はくは彼等も我等に在りて一と爲らん(約翰十七の廿一)我は微々たる者なり只夫れ神は悉く我に

在り神は總てのものに在り神の總てのものゝ爲め總てなり天に在ます我等の父よ。

○汝が祈禱に於て三位の主神を願ふは諸の造物天使及び人間の無原の父を願ふものにして在天の諸能力は之を願ふの汝を見て皆驚異し汝が信と愛と敬畏の念を以て彼等及び吾人の父造物主全能者及び主たる者即ち彼等の測るべからざるほど愛して深く敬ふ所の者を願ふを見て汝を愛願するを記臆せよ永遠の父を願ふは是れ何等高尚の幸福何等の威嚴何等の尊榮ぞ汝は常に渝ることなく此の神が無限の仁慈に由りて汝に得せしめたるの幸福を貴び汝の祈禱に於て之を忘るる勿れ神は汝を鑒み天使及び神の諸聖人は汝を願ひ時維一千八百六

十四年三月二十六日。予は此文を草して感涙は咽びぬ。

○ハリステスは一切なり及び一切の中(即ち聖天使聖人及び此世に於て神聖の生活を爲し若くは爲さんと熱中するの「ハリステアニン」に在り(哥羅西)彼を一切の上に立て、教會の首と爲せり教會は乃ち彼の身なり(以弗所一)の廿二、廿三夫れ是の如く教會即ち神の諸聖人神の母天使聖神品致命者克肖者義人及び諸聖人は救世主の体にして彼自ら其首たり女宰生神女—無形造物の首班なる女宰及び諸聖人は主と一神たり是を以て彼等は潔白神聖にして其主に對するの關係猶身体の諸肢の首に對する如く彼等に—神神の神の居ること猶靈魂の一身に於けるが如くにして彼等に居る者は唯一の神父なり而して此世の教會

の諸肢たる吾人も亦是れ一身あり。

○女宰生神女聖三者の美麗莊嚴の殿は神に次で諸の幸福清潔神聖眞智の寶庫屬神的權勢能力の源なり。

○吾人は愛の一身なり。飲食金銀衣服家屋等凡そ此世に屬する者は皆是れ虚にして人間の一切なり万物皆人間に對して虚無なり人間は己の靈魂に由りて不死なるも物質的のものは皆朽つるもの幻影的のものにして皆塵芥に異ならず万物皆神のものにして我等のもの一もあるなし人間は須らく神の像たる人間の品格を重んじ其需要あるに際しては之に物質的の幫助を與ふるを惜む勿れ。

○眞誠の愛の外凡てのもの皆空想なり兄弟汝を遇するに冷淡不禮粗

暴悪意を以てせんか汝は須らく云へ是れ悪魔の空想なりと而して兄弟の冷淡粗暴なる爲め心中に復讐の情鬱勃たらんか汝は乃ち云へ是れ我の空想なり真理は彼に在らずして此に在り即ち我の兄弟の我に對する如何に拘らず我彼を愛し我は彼に悪意の有るを見るを好まず悪意なるものは彼に在る悪魔の空想にして我にも亦之あり我は彼の缺點を寛恕す其缺點は我にも之あればなり我等に在るものは獨り罪に陥りたるの天性のみと汝或は兄弟に罪あり其缺點甚だ大なりと云はんとするかされど汝にも亦之れあるなり汝或は曰はん彼に某々の缺點あるに依り我彼を愛せずとさらば汝は己をも愛する勿れ何となれば彼に在るが如き缺點は亦汝にも在ればなり汝は斯く言はずして

須らく自ら全世界の罪を擔ひたる神の羔あるを記憶せよ爾は何人にして他人の罪の爲缺點の爲惡癖の爲之を議するか人皆己の主の前に立ち或は倒る羅馬十四の四乃ち汝はハリストスアインたる愛情に由りて努めて他人の缺點を寛恕し其惡と其心中の荏弱凡その冷淡凡その慾は皆是れ荏弱なりを愈すに愛を以てし温言を以てし柔和を以てし謙遜を以てすること猶自ら彼に等しき荏弱の情態に在る時他人より斯くせられんことを望むが如くせざるべからず蓋し人誰か荏弱ならん奸惡極まる敵は何人をか愛惜寛宥せん主よ請ふ我等の中に敵の凡ての奸計を破壊せよ。

○人は何者なるか汝之を記憶せよ彼の神の像なり神の子なりハリス

ナイアニンなり天國を嗣ぐ者なりハリストスの肢なり故に何人たるを問はず假令其靈魂に罪の傷痕を負ふとも其人を敬はざるべからず夫れ傷痕は悪魔と罪にて穿たれたるものにして傷痕は傷痕たるも像は依然神の像たるを失はず彼の傷痕は恰も己の傷痕の如く之を憐み之を愛ひ以て其愈されんことを祈らざるべからず吾人は皆一身一体にして悉く一の血より出て行實十七の廿六皆共に一の餅より領くる哥林多前十の十七に非ずや悪鬼の懺感離間仇隙には意を注ぐ勿れ万民皆一体たるを確認し我等皆一なりと曰へ。

○凡ての快樂の悉く之を塵埃と見做し腐敗と見做せ凡そ此世のものは何物たりとも愛することなく此世のものは人の爲に何物たりとも

惜むことなく何物の爲にも人に對して仇讎の念を懐く勿れ愛は愛する所の人を樂ましめんとし其人の爲には何物をも惜しとせざるなり。  
○主よ我をして我が罪を看破し以て我をして我に等しき罪人を輕蔑せず彼等の罪の爲め彼等に對して我が心に惡意を抱藏せしめず自ら己をば首たる罪人として蔑視し自ら己に對し己の肉体的の人に對しては常に不俱戴天的なる憎惡の念を懐しめよ主曰く人若し己の生命を惜まざれば我が門徒と爲るを得ず路加十四の廿六。

○神の全世界の創造者及び治理者なり凡そ宇宙間に在るものは皆彼の業彼の能力と智慧の結果なり。

○操觚の手を以て或は言を以て或は行を以て神の榮を宣揚するを要

するや否やの何人にも問ふべからず是れ吾人の力の及ぶ限り爲すべき事なればなり天賦の才能は必ず之を實地に應用せざるべからず汝此の見易き事に思を費さんには恐らく悪魔は窃に汝に諭すに汝が只心にて之を爲すを以て足れりとするこのことを以てせん。

○現世暫時的の生活の本質は嬌艶妖態是なり。

○世に樂しきこと愛に若くものあるか而も吾人に何ぞ愛の少きや其故何ぞ他なし己の肉体を愛すること甚しきに由るものにして肉体と共にするものは皆肉体的のもの物質的のもの俗臭的のものゝみなればなりされば吾人は肉体を蔑如し神にて歩み神にて肉体的の作用を撲滅せん。

○吝嗇は愛を頹敗し吾人の所有物を取る者若くは窃取する者に對して嫌惡の念を起さしむ只夫れ精神的の施濟に至りては吾人をして吾人の施を受くる者に對し愛情を起さしむされど己の本意に出でざるの施濟は不快の情を起さしむるを免れず吝嗇の惡魔より出で施濟は神より出づ神は施濟の父あり凡そ物質的のものに戀々たらしむるは惡魔の所爲にして物質的のものを輕んじ神に對する愛の爲め之に對して冷淡なるの情は神より出づアミン。

○我が軛は易く我が任は輕し(馬太十一の三十)主の誠は此の如く易くして且輕く惡魔の軛は難く其荷は重し而して其結果如何吾人は主の誠を破りて惡魔の旨を行ふ噫吾人は困苦の人なる哉。



○凡そハリステイアニンは其の何人たるを問はず假令病人たりとも  
 汝亦自ら病人たるに非ずや。常に之をハリストスの肢なりと思ひ常  
 に尊敬と愛情とを以て之に接し赤心を披摠して之と談し飲食衣服た  
 ると書藉金銀たるを問はず彼苟も之を要するに於て何物をも彼の  
 爲に惜む勿れ。主は彼の爲に汝に酬いん吾人は皆彼の子にして彼は吾  
 人の爲に万事なり吾人は皆罪人にして罪の報は災厄不幸憂悲疾病及  
 び死あり(羅馬六の廿三罪を免れんとせば祈禱せざるべからず祈禱せ  
 んとせば信と望とを有せざるべからず夫れ然り故に祈禱と信と望とは  
 吾人罪人に取りて必要なり罪人の無形的の口よりは勿論其有形的の  
 口よりも祈禱は出づべからず。

○家裡の祈禱并に公衆の祈禱の時惡魔の詭計及び意思の散逸に對し  
 ては眞理の單純なることを思ひ自ら云へ我の單純に即ち我の心の淡  
 白を以て凡そ求むる所のものを信じ凡てのものを單純に求む而も我  
 が敵よ汝の詭譎汝の誹謗醜陋空想は我之を排斥すと謙遜并に己の微  
 微たる事と万物を造り万物を盈たして凡その事を凡その人の中に行  
 ふ(哥林多前十二の六)神性の圓滿を確認することは汝の諸般の思想汝  
 の言行の本原基礎源泉たるべし。凡そ驕傲に感染する者は萬般の事に  
 對して—甚しきは神聖の事物に對してすら—蔑視するの傾向ありて  
 驕傲は意中に凡その善意善言善行總ての神の造物を絶滅若くは汚辱  
 す。是れ撒但の死臭なり。

○汝をして神の誠を行ふを厭ふの心を起さしむる者は果して何ぞ肉  
 体と斯世即ち人の嗜む所の美味美食なり人は中心之を以て快とする  
 も實際は心を粗暴頑固ならしむ次に美服并に粧飾若くは勳章等に戀  
 戀たるの念あり若し衣服若くは粧飾にして甚だ美ならんに之を汚  
 し之を燻し之に塵を付け之を水に浸さらんことをのみ是れ慮り意  
 思と言と行を以て神に悦ばれんとするを慮るの心の消ぬ失せて心は  
 之を譬へば衣服粧飾のみにて生活するものゝ如く之にのみ束縛せら  
 れて神のことは意に介せず之に其心を傾けず若し其人にして司祭な  
 らんには民の爲に祈禱すること慮らず靈魂を慮る者と爲らずして  
 名利に汲々たる者と爲り人々を求めずして人々のもの即ち其金銀飲

食衣服と其愛顧好評を求め之に媚るに至る夫れ然り故に汝は須らく  
 汝をしてハリストスの誠を行ふを厭ふの念を起さしむる此世の諸般  
 の嬌艶に對し物体の妖態に對して奮闘し全心を傾けて神を愛し全力  
 を竭して己の靈魂の救贖と人々の靈魂の救贖を慮り靈魂を愛する者  
 と爲れ無より起りたるの世界の實在的の無に歸せんとするを記憶せ  
 よ蓋し天地は廢するも神の呼吸不死の王たる神の像ある人の靈魂ハ  
 自ら不死あればなり汝須らく悉く此理を記憶して此世の凡ての物に  
 戀々たるの情を絶て朽つる造物は之を度外視して常に汝の目を夫の  
 万物に在りて絶えず汝を鑑み絶えず汝の心と汝の思念を驗するの造  
 物主に向けよ如何なる物にも心にて戀着する勿れ之を汝の心の神と

爲す勿れ我等の心の惟一の神は之を造りたる主神是なり蓋し心は彼の呼吸なればなり如何なる人即ち如何なる肉体にも心にて戀着する勿れ蓋し我等の心の惟一の神は主神にして獨り之に附着せざるべからざればなり物体若くは肉体に戀着することは詐偽惡鬼の欺騙及び惡魔の旨なりアミン。

○吾人は取るに足らざる暫時的のものに戀々として遺す所のものは何ぞ之が爲め其の失ふ所及び失はんとする所の幸福は果して何ぞ我が靈魂よ主は汝に此の有形世界は汝に比して取るに足らざるものなりと云へり汝は須らく之を取るに足らざるものと見做し造物主が汝を如何なる者に造り汝を如何なる者と爲さんと欲するやを考一考せ

よ神子の降臨彼が天の眞理の福音を以て此世を歴遊したること彼の赤貧に甘んじたること彼の奇蹟預言彼の秘密の晚餐彼の凌辱彼の苦難死復活昇天等を追思して天上の幸福に意を傾けよ。

○眞誠の愛は甘んじて困苦紛擾勞働に堪へ侮辱蔑視歛點罪過不義理の如きも其の他人に害を及ぼさざる以上は之を忍ぶ他人の凌蔑憎惡を受くるも見ざる所なきの神公義の審判者に其審判を一任し無智の愆に昏まされたる者をして悔悟する所あらしめんことを神に祈りつゝ忍耐と溫柔を以て甘受す。

○祈禱の時及び神の言を誦する時に方りては其の一意一言に對し恰も神の神眞理の神其者に對する如く敬虔の念を懷かざるべからず聖

言に對する猜疑及び侮慢は詐僞の神の毒として之を截斷せざるべからず而して猜疑と侮慢は乃ち自負傲慢の結果なるを以て傲慢は其根より之を截斷して恰も天眞爛熳として神の前に喋々喃々する嬰兒の如く夫の兩親より教へられたる所のものを知得して其事をのみ言ふ嬰兒の如く兩親の訓誨に戻る他の勸諭は之を聽かず之を知らず且之を聽き且知るみとを欲せざる嬰兒の如くならざるべからず何となれば聖神は聖人に諭すに真率無邪氣なる小兒の如くにして教會の我等の口に入るゝ祈禱を以て神に求め神に感謝し神を頌讚すべきを以てすればなり汝須く吾人が皆在天の父の子たるを記憶し心の真率を以て万民を視て至聖至仁在らざる所なく見ざる所なく全能至智公義不

變不易万民を慮り己の仁慈の翼を以て万民を庇蔭する永遠の父の子と爲し善を以て人々の裡に於ける諸の惡に克ち衆人と相愛生活すべし。  
 ○人々の爲め此の神の尊貴ある所得及び副業の爲め祈るは是れ何たる高尚の位格名譽幸福なるよ人間の父たる神に其子の血にて贖はれたる彼の人々の爲め祈禱するには喜悦銳氣熱心愛情を以てせざるべからず彼等は神と羔とに購はれたり(默示録十四の四神の司祭よ能く聽け汝は既成の祈禱文にて屢神と相語ることあり汝己の舌にて詔ひ口に言ふ所と心に思ふ所を異にし或は口に言ひつゝ其の言ふ所に無感覺なるが如きことを爲す勿れ凡そ人の爲に祈らば惡魔的の狡猾と

貳心を懐かず乃ち心と口にて人の心腹を試むる(聖詠七の十)全能者神  
 に祈れよ而して汝常に誠心主神に祈らんとせば悉く此世のものを蔑  
 視し此の眩惑的の朽つる速に過ぎ去るべき世界の幸福快樂即ち飲食  
 美味金銀衣服粧飾若くは勳章等に戀々たらず此等のものを以て悉く  
 塵埃朽壤水と見做せ汝須らく節制を守れ只表面的アヤフヤにあらで  
 全心を傾け専心神を愛せよ之を愛する軽々たらず須らく全意全力を  
 以てし憂悲も壓迫も窘逐も災難も死も生も其他何物たりとも神に對  
 するの愛より汝を隔離すること能はざる如くすべし又他人の過失弱  
 點迷誤情慾の發動等は之を寛容して之を愛する已の如くせよ汝慎ん  
 で夫の絶えず吾人を監視し絶えず吾人に耳を傾け傲醒倦ますし吾

人の心腹を試むる神と談話する事の一大事たるを記憶せよ汝ハ詐ら  
 ず人の爲に祈禱する時に於て汝の心神と人々に對して冷談する勿れ  
 神が萬般の事の爲め汝の虚言若くは詭辭の爲め汝を審判せんとする  
 を記憶せよ古來の敵詐僞の父なる惡魔は倦まず撓まず諸般の方策を  
 運らして汝が情慾的の心を頑冥ならしめ無感覺ならしめ詐僞狡猾な  
 らしめ汝の心より神に對する信と望と愛と隣に對する同情とを驅逐  
 し獨り此世の暫時的の利益のみを以て汝を占領せんとす神の司祭よ  
 汝宜く己を省み己の心中の思念を省み此世の情慾に束縛せらるゝ勿  
 れ須らく惟一の神及び人間の靈魂を以て汝の樂とし靈魂を愛する者  
 と爲りて貪利者若くは嗜慾の徒と爲る勿れ主よ願くは爾自ら斯く爲

し給へ蓋し爾無くしては何事をも行ふ能はさればなり(約翰十五の五)

○至仁鴻慈の主は万民の爲め及び我困苦の者の爲に一切なり万事皆主のものにして我がもの一もあるなし(悉く自己の所有を放棄すること)我の敬虔の心を以て万事の爲め即ち一縷の風の爲め光線の爲め水の爲め一片の食の爲め衣服の爲めにも神に感謝せざるべからず萬物悉く—我等の肉身其者も亦—實に土及び水なり「アミン」。

○我等は皆一なり故に相互に愛すること己の如くせざるべからず他人の爲に物を惜むの利己心及び心中の慌亂と愛惜心の發動は惡魔より出るなり凡そ此世の事物に戀々たるの情の惡魔の妄想及び吾人の自愛心の空想なり。

○聖教會が家裡の祈禱に於ても將た聖堂の祈禱に於ても吾人をして一人の口よりせず衆人を代表したる祈禱を唱へしむるは何故ぞ是れ吾人に諭すに絶えず互に相愛すべきを以てするものにして即ち祈禱に於ても世俗の交際上に於ても常に萬事に於て互に己の如く相愛し神の高尙の一体を爲すの三位に倣ひつゝ亦自ら多數より成るの一体たらしめんが爲なり願はくは皆一と爲らん父よ爾が我に在り我も爾に在るが如く願はくは彼等も我等に在りて一と爲らん(約翰十七の廿二)

衆人を代表する共同の祈禱は生活上に於ても吾人に諭すに他人と生活上の需要を分ち生活上に於て吾人は萬事を共同にして恰も一体たる如く事毎に相互の愛をして歴然として表顯せしめ并に各其の能く

する所に從て己の才能を他人の幸福に利用し己の天賦の才を地中に  
埋めず利己の徒と爲らず懶惰の人と爲らざるべきを以てす汝智者た  
らんか須らく無智者に教訓を與へよ汝學者たらんか須らく無學者を  
啓發せよ汝強者たらんか須らく弱者を助けよ汝富者たらんか須らく  
貧者を助けよ。

○汝獨り祈禱して心氣銷沈し單獨にて鬱屈する時は通常の如く三位  
の神と諸の聖天使汝の守護天使神の諸聖人が大陽よりも明煌々たる  
の目を以て汝を鑒みるを記憶せよ是れ眞實なり何となれば彼等皆神  
に在りて一あるを以て神の在る所には彼等も亦在ればなり大陽の向  
ふ所には其光線も亦皆反映す此の言ふ所汝能く之を悟れよ汝は常に

燃ゆる心を以て祈れ之が爲め汝は決して飽食する勿れ大飲する勿れ  
汝の何者と對談するかを記憶せよ人々は祈禱に於て何者と對談し其  
祈禱の證者の何者なるかを忘るゝと屢之あり彼等は儆醒倦むこと  
なく見ざる所なき者と對談し在天の諸能力及び神の諸聖人が彼等と  
神との對談に其意を注ぐを忘るゝなり。

○若し敵汝を圍みて汝は屬神的究厄に際せんか汝直に我等の至聖女  
宰を顧べよ彼の女宰たる所以は己の女宰たる能力を以て我等に反抗  
する能力を制し主宰權を以て吾人を救ふに在り何となれば吾人は彼  
の嗣業なればなり。

○我等は皆一なり而して主は万民の爲め并に天使の爲め諸聖人の爲

め物質世界の爲め其の微々たる各部分の爲に一切あり試に天空の鳥を觀よ…試に野の百合…野の草を觀よ…神は斯く衣すれば況んや爾等をや小信の者よ…爾等先づ神の國と其義(相互)の愛とを求めよ然らば此等のもの皆神より爾に加はらん(馬太六の廿六乃至卅三是れ汝に取て必要欠くべからざる真理なり汝須らく之に従へ万事に於て神を待めよ凡そ爾等が慮る所を彼に託せよ蓋し彼は爾等を顧みるなり(彼斯前五の七)實に吾人は今恰も人を慮るの神なきが如くにして生活す豈此の如く生活して可ならんや吾人は總体萬民萬物を慮る者の有無は之を意に介せずして自ら萬事を設計せんとし自ら己を安固にせんとするなり

○雷に美味美食又は美麗の事物のみならず己の有罪なる身体の爲にも慮る勿れ何となれば聊かたりとも此等のことに戀々たる時は神の怒を招けばなり我等見ゆる者を顧みずして見えざる者を顧みるに縁る蓋し見ゆる者は暫時にして見えざる者は永遠なり(哥林多後四の十八)知るべし見ゆる者は恰も有らざるが如きものとし之に一顧をだも借さずして見えざるものに意を注ぐべきを何となれば彼は暫時にして此は永遠あればなり且汝若し見えざる者を尋ねんには神は汝の爲め見ゆる者のことを慮ること從來慮りたるが如くならん

○「ハリステイア」の威嚴就中ハリステス教の司祭の威嚴何ぞ其れ偉なるや彼のハリステス及び救主神と一体たるなり(聖機密に由りて)



○司祭よ汝聖機密を領しつゝ心に云へ施生者よ願くハ我に來りて我を地獄の蛇の腮より脱出し我を情慾の汚穢より清め我が心の動搖を鎮止し我が死したる靈魂を蘇生し我が憂悲鬱々たる神を快活にせよ願くは爾來りて罪の飢餓よて喘々焉たる我を養ひ諸徳にて裸なる我に衣せ荏弱なる我を堅うし不名譽なる我を尊うし卑賤なる我を顯揚し蔑視されたるの我を高尙にし暗黒なる我を照らし給へ凡その仁惠を我に垂れ給へ至仁者よ我爾に感謝す。

○我が心は恰も暗黒なる地の如し福音ハ恰も我が心を照し及び之を蘇する太陽の如し主よ爾の公義の眞誠の太陽をして我が心を照さしめよ。

○我情或乞丐を諦視し之と語る少時にして彼等が如何に愛すべく溫柔謙遜質撲誠心に人の幸福を望み肉体にて貧きも心靈的の富者あるを知る彼等は粗暴驕傲奸惡尊大性急狡猾神と人々に對して冷淡嫉妬吝嗇なる我を羞かしむ此の人々こそ神の眞誠の友と云ふべけれ彼等の精神的の寶に富むを知れる敵は己の僕ある傲慢の富者に彼等を蔑視憎惡するの念を起さしめ彼等を以て恰も此世に住み此世に歩むの權利なき者の如くに見做し之を地の面より一掃し去らんとすア、我が神の友我が貧困なる兄弟よ汝等は精神的眞誠の富者にして我の眞正の乞丐困苦の者貧しき者なり汝等こそ我等の如く此世の幸福を裕かに所有するも節制溫柔謙遜無邪氣赤誠及び神と人々に對する熱情

等の德行に乏しき貧者より誠實の尊敬を得べきものなれ。主よ我をして外観を蔑視し我が智の目を擧げて内部に向はしめ外観を蔑ろにして内部を貴ぶを得せしめよ。此世の富者有力者に対しても我をして亦此注意を保たしめよ。

○吝嗇の徒は物を貴びて物を要するの人を貴ばず人間は尊貴價すべからざるものなるに拘らず物を惜みて人を惜まざる。彼は己には惜しとせずして他人に與ふるを惜み己をば愛して他人をば愛せざるなり。されど萬物皆塵埃あり水なり。全世界を塵及び草の如く人間の足下に服したる無盡藏の主は一切の爲に一切なり。

○愛は寛忍す即ち卒然敵を撃ち或は之を陷隣して不幸の者と爲すは

奸惡の性質なるに反し愛は俄に犯罪者を罰せず之を訓誨譴責して恒忍以て其の墮落を寛容すとの意なり。吾人の奸惡且不耐なる眞に驚くべし。兄弟罪を犯すことあれば吾人其の罪を犯すを憐れず兄弟たる愛情を以て其の故意的の無智と誘惑に陥りたるを哭せず反て之を憤り其の罪を犯したる故を以て之を輕蔑し而も自ら同様の罪を犯したるも人々寛大にして吾人の罪を赦し吾人が上官の寛容なる故に由りて漸く己の情慾惡僻等の墮落より興起し聊か有益の人間と爲りたるを知らず且若し吾人は夫の罪を犯す兄弟の如く麗々たらすとすも今猶同様の罪に服し同じく責任を負ふを免れずとせんには豈犯罪する兄弟を寛容せずして可ならんや。然れども犯罪の爲め他人を罰する

に當りては自己の既往若くは現在の弱点過失情慾を記憶し部下の者を罰するに忿怒無慈悲不忍耐性を以てせず宜しく之を愛し之を惜むの念と恒忍の心を以てすべし。溫柔を以て逆ふ者を戒むべし神或は彼等に悔改を與へて眞實を識らしめん彼等が悪魔即ち彼等を捕へて己の旨を行はしむる者の網より脱れん爲なり(提摩太後二の廿五、廿六使徒が寛忍矜恤を以て吾人の隣に對する愛の第一兆候としたる所以偶然に非ず曰く愛は寛忍し矜恤すと(哥林多前十三の四)何となれば凡そ人は荏弱粗忽にして罪に傾き易しと雖も好機會に際すれば豁然大悟して後悔すること亦容易なればなり故に其弱点過失に對して寛忍すること恰も自ら他人が吾人の弱點を寛恕し之を見て見ざるが如く

せんことを望むが如くすべし然れども罪が他人に悪影響を及ぼし若くは其職を曠廢し若くは益彌蔓せんとするの恐ある場合には直に之を箝制鎮壓する斷乎たる處置を施し若くは有害の人を善良なる人々の仲間より隔離せしむること必要なり悪者を爾等の中より除け(哥林多前五の十三)

○神は人間の爲に己の獨生の子を惜まざりしとせんには吾人隣の爲め飲食物にせよ衣服にせよ將た其諸種の需要に供する金錢にせよ何物をか惜むべけん主が甲に多く與へ乙に少く與ふる所以は吾人をして互に慮らしめんが爲なり主は吾人をして好んで彼の仁慈の豊かある賜を他人と相分つに於ては人に對する愛の爲に我が心を開發し以

て身靈の益を爲さしめ又之を節用するに於ては暴飲暴食を避け以て  
身体の益を爲さしむるが如く仕組みたり吾人若し自愛に溺れ吝嗇に  
して獨り自ら貪り他人に與ふるを惜むときは吾人自身の身靈の害と  
爲る何となれば貪慾と吝嗇は神と隣に對する愛の爲め心を閉塞し吾  
人の諸慾を増長せしめ以て吾人を嫌厭すべき自愛者と爲すを以て靈  
魂に害あり又貪慾は吾人をして暴飲暴食せしめ吾人の健康を害する  
に至るなり。

○公然罪を自白して之を撃ち之に鞭ち以て益之を惜むの情を起さん  
が爲め屢告解すること必要なり人よ夫の果敢なる罪が吾人を如何な  
る禍に陥れ又神の子主宰ハリストスが吾人の救贖の爲め何を爲した

るかを思へ須らく彼の藉身其任意の究困其の人々に對する待遇其説  
教其奇跡彼に對する嘲弄罵詈唾を吐付けられしこと歐打せられし  
と頬を批たれしこと遂に最も汚辱なる磔刑に處せられしこと死して  
葬られしこと并に死より復活したることを追想せよ又彼が吾人を永  
遠の苦難より救はんが爲め如何ある事を行ひ且之が爲め汝より如何  
ある事を要求するかを思へ即ち汝が全く己を彼に委ね彼の誠を遵奉  
しつゝ己の爲にせず彼の爲に生活せんことを要求するなり汝宜く吾  
人を罪に陥るゝ肉体の慾目の慾世俗の驕傲を避け肉体を其情慾と共  
に十字架に釘し忍耐を以て己の靈魂を救へ又須らく神を愛し且隣を  
愛すること己の如くせよ。

○我が生命の主率は取るに足らざる忘恩醜惡なる吾人の爲に果して何事を爲したるの彼は天より降り吾人の肉体を衣多くの奇跡を行ひ苦難を受け其血を濺ぎ死して地獄に下り撒但を縛し地獄を破り地獄に繋かれたる者を釋きて天に昇せ死より復活し以て我等をして已と共に復活せしめんとす吾人須らく彼が臨終の遺言を履行し互に相愛して他の諸誠をも遵奉するを勗め我儘と抵抗とを以て彼を侮辱せざらん主よ我を助けよ。

○吾人は主と一神たらざるべからず即ち神聖の神愛と仁慈と溫柔と恒忍と慈憐の神を有せざるべからず凡そ此の神を懐かざる者は神に屬せず夫れ然り故に我は愛と爲り惟一の愛と爲り万人を以て一と見

做さるべからず願はくは皆一と爲らん(約翰十七の廿一)此事成らん。主よ我を助けよ。

○凡そ此世に於て吾人に媚を呈したる富貴飲食衣服金殿玉樓并に凡そ吾人の耳目を眩惑するもの皆悉く吾人を棄て此等のもの皆一夢と化し去り吾人より信仰と徳義の行節制廉潔溫柔謙遜慈憐忍耐順從等の行を要求せらるゝ時吾人彼の世に於て果して如何なるべきか。

○吾人は天に住む者諸聖人使徒預言者致命者聖主教克肖者義人等と最も活潑なる屬神的の關係を有たざるべからず何となれば彼等は皆是れハリストス教會なる惟一の体の諸肢にして吾人罪人も之に屬し主イエススハリストス自ら其の生きたる首なればなり故に吾人は祈

禱に於て之を願ひ之と對談し之に感謝し之を頌讚す凡そハリステイア  
 ニンたる者苟もハリステイアニンたる進歩を爲さんと欲せば必ず之と  
 關繫を有たざるべからず何となれば聖人は吾人の友吾人を救贖に導  
 く者吾人の祈禱者及び仲保なればあり。

○ 肉体即ち其慾を蹂躪せよ。肉慾及び凡そ肉に屬するものは皆之を汚  
 泥と同視し之を慮るべからず。主よ爾の能力を以て我を助けよ。凡そ肉  
 体的のもの有罪のものを以て取るに足らざるものと爲さば主は吾  
 人の爲に一切と爲り心中の俗塵的墟址の上に主は王たらん。

○ 吾人の肉体と其慾に戀々たるに由り或は肉体及び凡そ肉体的のも  
 のを過度に重んずるよりして惡魔の己の神に背反する旨を行ひ吾人

の心中より神の國を逐斥し吾人を天に昇さんとするオオニススハリステ  
 イアの事業を破壊し以て吾人の心に主と爲る是れ眞なり故に肉体を  
 蔑視せざるべからず其の過ぎ去るを以てなり。克肖者に對する讚詞然  
 るに現世に於て此世の人々は肉体と肉体的の物のみを貴び神靈と屬  
 神的のものたる信と徳とを毫も之を重んぜず。

○ 此世の嗜慾金銀等の幸福を貪り之に戀々たるの心には主住まず。是  
 れ曾て日々實驗せし所及び現に實驗する所なり。其心に住む所のもの  
 の殘忍驕傲高慢尊大憎惡復讐嫉妬吝嗇浮華虛誇偷盜欺騙僞善假粧狡  
 猾巧言諛媚邪淫猥褻の言語暴戾變節背誓等なり。

○ 吾人は協同一致及び愛と屬神的重生に由り皆惟一にして在天の父

即ち天に在ます我等の父の我等衆人の爲に一切なり吾人は一靈を以て一の兄弟たるものなり若し人ハリストスの神を有たずばハリストスに屬せず(羅馬八の九)吾人請ふ能く此理を解せん夫れ吾人のハリストスの教會にしてハリストス自ら其首たり即ち彼の溫柔謙遜にして吾人苟も愛に居らば吾人に取りて幸福の無盡藏なり吾人は群にして彼は牧者たり吾人は支肢にして彼は首たり支肢たる者万事を首より得るとせんには何を以てか誇るを得べき。

○吾人若し此世に於てハリストスの諸肢と活動的の干係を有ち事實と真理とを以て彼等を愛したらんには神の諸聖人も吾人と活動的の連結を有ちて凡そ吾人の彼等に求むる所は其の何事たるに拘はらず

彼等が凡そ己の爲に貴しと爲したる所のものを犠牲に供したるハリストス神に對し我等の爲に代求せん。

○生命の源たる神より之に生命の果を献せんが爲め生命を受けたるの吾人は果して己の生命と己の生命の果を供物として列祖預言者使徒致命者聖主教克肖者義人及び諸聖人の如く神に献するか日々思ひ茲に到ることあるか吾人は獨り己の爲に生活するに非ざるか吾人は果して施生者の誠命法規に従て生活するか若し然らずとせんには之を妨碍するものは何ぞ己に對するの愛自愛に非ざるか吾人は須らく己に對するの愛を以て神に對する愛の犠牲に供せん吾人の抑も何者ぞ罪なり腐敗なり。

○日々汝に施濟を乞ふ者あり汝は日々激怒粗暴憤懣の念を懐かず快然として施せ汝は夫の首を枕するの處ある無き如き不幸なる神の諸子に己の物を與ふるに非ずして神の物を與ふるものなればなり汝は神の産業の番人ハリストスの至微なる兄弟の日々の僕たる者須らく溫柔謙遜を以て己の事を行ひ敢て侮むこと勿れ汝須らく審判者及び報酬者たるハリストスに勉めよ是れ至大の位格なり汝欣々然として善事を行へ簡單に多くの勞を用ゐずして金銀汝の手に入らん汝は單に多く思慮せずして之を施せ汝の勞に對するの報豊がならん故に亦自ら他人に對して豊かなれ汝の報を受くる功に依るに非ず故に他人に對しても亦功に依らず乃ち其需要は應じて與へよ。

○我并に他の多くの人々の感覺する如く慾に溺るゝの人、惡魔と一靈たる如く有徳の人は主と一靈たるものにして彼れ自ら之を感覺し既に我生くるに非ず即ちハリストスは我の中に生くるあり(加拉太二の廿)と云ふ或は主自ら我が体を食ひ我が血を飲む者は我に居り我も彼に居るなり(約翰六の五十六)と云ふ如く或は使徒の爾豈自ら知らずや、イイススハリストスが爾等の中に居ることを(哥林多後十三の五)と云ふ如く神の聖人は主と一靈たるなり凡そ敬虔にして此世に住する者亦皆是の如し是れ大なる機密此世に住する者の至大の名譽たり之に反し夫の空想を逞うする者及び不順の徒の汚辱滅亡亦如何ぞや彼等は惡魔と一靈たりハリストス神よ我等を悉く彼れ惡魔より救ひ給



へ。  
○若し夫れ眞理は神の言に於て啓示せられ神に啓迪せられたる諸聖人の智にて研究闡明せられ心にて其光明及び生活力を悟得したりとせんには之に疑惑を挿むは其罪重し是れ惡魔の人の智と心とを驕揚する策なり。

○我は自ら一瞬一秒毎に主に對し身靈上の負債者なり即ち靈魂は罪の負債を負ひ身体は不費にて彼より飲食金銀衣服空氣温暖光等凡そ種々生活の資料たる物質的の賜を受くるに由るなり主の我に測るべからざる無数の債を赦すとせんには我争でか喜んで我が隣に身靈上の債を赦さざるを得ん主の不費にて測るべからざるはと我に賜ふに

身靈上の諸幸福即ち智と心に光心に安慰と喜悦及び種々の知識を以てし空氣の一縷に至るまで我に賜ふとせんには我争でか人に神の賜を不費にて與へざるを得ん且此事たる殘廢たるを免れざるべし吾人は一体にして互に支肢たる者なれば必ず互に何を以てか相負ふ所あるものなり之と同じく社會的の身体に於ても他人が吾人に負ふ所あり或は吾人が他人に負ふ所なき能はず且吾人は互に負債を免さざるべからず夫の身体に於て甲の肢が自然乙の肢の爲に生活すること往之あり譬へば胃が首の爲め或は手足の爲め生活する如く社會に於ても亦然り最も主として服膺すべきは吾人が不費にて万物を神より受け自ら數限りなく彼に多くの負債を負ふを以て吾人若し只吾人に

負債を負ふ者に免すに於ては神が愛を以て吾人に免すこと是なり吾人は欣然として熱心に我等の隣に彼等の我等に對する負債を免し日神に此犠牲を獻げ相愛して生活せん放肆と情慾の暴横を斥ぞけて全く神の旨に服従せん吾人は神の像にして而して神は愛なり(約翰第一書四の八十六)吾人は相愛生活し之に全力を傾注せん主よ助け給へ而して凡そ此世の食物衣服金銀等は之を塵埃と見做し塵埃の爲め互に噛合ひ相敵視して主の怒を招くが如きことを爲さざらん食物の爲め金銀の爲め豈主を賣るべけんや神若くは肉体二者必ず其一に従ふなり二神を奉ずる能はず二主に事ふる能はず肉体の吾人に命する所の法や全く神の法に背戻す即ち其の命する所は口腹の慾を盈すこと

不節制飲食金銀を好みとすること吝嗇若くは人よ神の賜を與ふるを惜むこと飲食金銀の爲め人を憎み又は人に對して高慢すること又は之が爲め嫉妬すること人の不幸に對して殘酷無情あること等なり公平無私にして主に事へんとせば如何にして可なるか肉体を其情慾と共に十字架に釘し之を取るに足らざるものと見做し凡そ肉体の貴び且其深く愛する所の美食金銀衣服家屋車等は皆實際然るが如く之を取るに足らざるもの塵埃膿及び土と見做し愛を以て生活上最も貴重なものを見做し之が爲め一切を犠牲とし之に一切を服従せしめ之が爲め一切を蔑視すべきのみ

○惡魔と稱し又は撒但と呼び造物主に永苦に定罪せられ不信者惡徒

悔改せざる者を永遠の苦に誘導せんとする無形の毒蛇あることは  
 人々の須らく知得確信すべきことなり。又神が人々を此蛇の有毒の刺  
 たる罪と永遠の死より救はんが爲め此世に救世主を遣はしめたるこ  
 と并に救世主の此蛇の刺撃に對する救贖的治療方として信仰祈禱痛  
 悔及び己の体血の聖機密を授くること、亦是れ人々の須らく知得確  
 信すべきことなり。

○雨の滴多きも皆一の陰雲より來り光線多しと雖も皆一の大陽より  
 發す樹に葉繁茂すと雖も皆一の樹より生じ地に沙多しと雖も皆一の  
 土より出づ人間多しと雖も之と同じく皆一のアダムより出で更に其  
 本源に溯れば皆神より出でたるなり。

○我が吾人をして旧々々々壽命を加へしむる所以の爲の果して何の  
 爲ぞ他なし吾人をして各漸々己の靈魂より邪惡を去り以て己は幸  
 ある幸直を得得し例への無邪氣ある羔の如く天眞爛熳たる小兒の如  
 くなりて聊かかりとも此世の事物に戀々たる情を懐かず愛情ありて  
 率直質樸なる小兒の如く全心を傾けて神に附着し己の全心全靈全力  
 全意を盡して神を愛し隣を愛すること己の如くならしめんが爲あり、  
 吾人は須らく熱誠熱淚的の祈禱を以て主に己の心に率直を與へんこ  
 とを求め己の靈魂の邪惡たる猜疑人の禍を望むこと人の禍を喜ぶこ  
 と憎惡驕傲高慢自負自讚不耐憂鬱失望悔慢忿怒畏怖怯懦嫉妬吝嗇  
 口腹の慾癡癡想像的の邪流實際的の行流貪婪并に概して物を得ん

するの慾懶惰不順及び罪の暗黒なる群を悉く排除することを熱心焦慮せん。主よ爾なれば何事も行ふ能はず爾親しく我等に祝福して此事に従はしめ我等をして我か敵と我が慾に勝つを得せしめよ。此事必ず成らん。

○吾人須らく己より靈的短見を去り此世の事物にのみ全意を傾注するを止め智目を以て來世無窮の生命を洞見し心を以て己の天の本國に溯らん。只現世の目に見ゆるもの并に概して五官に觸れ吾人の肉體の感情を樂ましむる物のみを見て來世の生命を見ず目未だ見ず耳未だ聞かず人の心未だ入らざるも至仁睿智の神が彼を愛せし者の爲に備へし所の幸福哥林多前二の九を見ざるは實に不死の靈魂に取り

て驚くべき短見なり吾人が自ら好んで斯く短見なるよりして自ら失ふ所のもの果して幾何ぞ吾人は恰も蠅の如く此世の快樂にのみ附着して敢て驟然奮起して之を一擲せんとするの意なし。此世の快樂を蔑視する者は福なり彼の幸福の無窮ならん。

○此世に貧者あり富者あるが如く心靈界にも亦貧者あり富者あるなり。貧者は富有の人に對して施を求め之なければ生活する能はざる如く心靈界の情態に於ても貧者は靈的の富者に援助を請はざるべからず。吾人は靈的の貧者乞巧にして聖人は靈的の富者若くは此世に於て既に信と敬虔とを以て輝く者なり。吾人貧者は則ち彼等に頼らざるべからず。吾人の宜く彼等の祈禱を請ひ吾人が率直なること小兒の

如くなるに力を藉さんことを求め吾人を心靈的の智に訓練して罪に  
勝ち神と隣を愛するに至らしめんことを求めざるべからず夫れ然り  
故に神の聖人たる預言者使徒聖主教致命者克肖者義人及び諸聖人よ  
我が爲に祈り我をして爾等に彷彿たらしめよ。

# 靜思錄 卷之二 畢

明治三十五年三月一日印刷

明治三十五年三月廿日發行

發行者兼

上田將

東京市牛込區市ヶ谷左内坂町卅四番地

發行所

正教會編輯局

東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地

印刷者

太田萬七

東京市麹町區紀尾井町六番地

印刷所

成進堂活版所

東京市四谷區坂町二番地

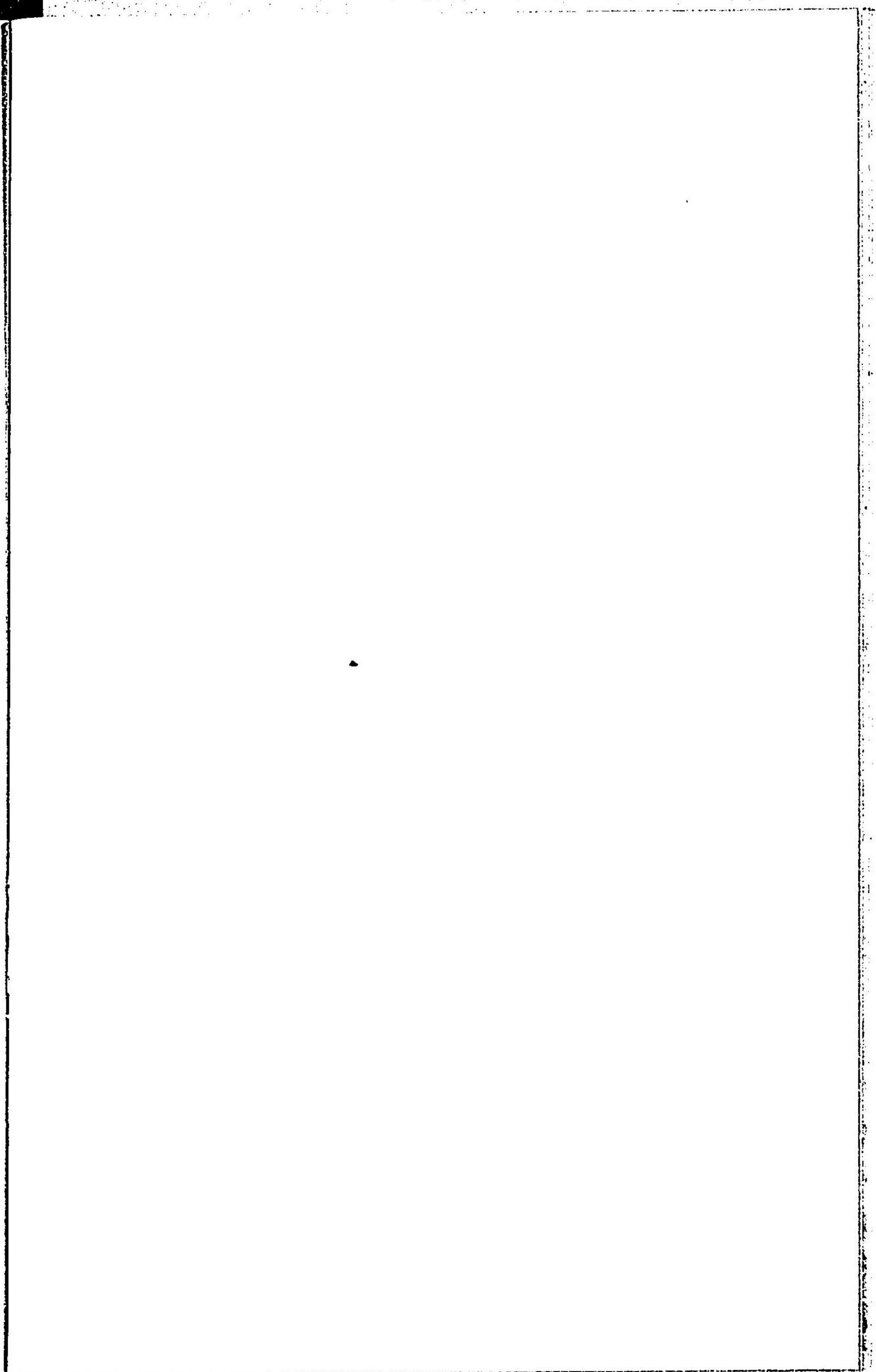
2/30/24

正 誤

頁數	行數	誤	正
二九	八	狹隘の下	にを脱す
七〇	一	ことなり	ことあり
一三九	二	我等として	我等をして
一八〇	四	ざるもの下	のを脱す
二三三	八	救贖の下	に益する所の 五字を脱す
二四三	一	在りしも	在りとし
二六〇	二	こそ	ふとを
二六一	五	者あり	者なり
二六七	八	のて	じて
二七三	一	於ての	於ては

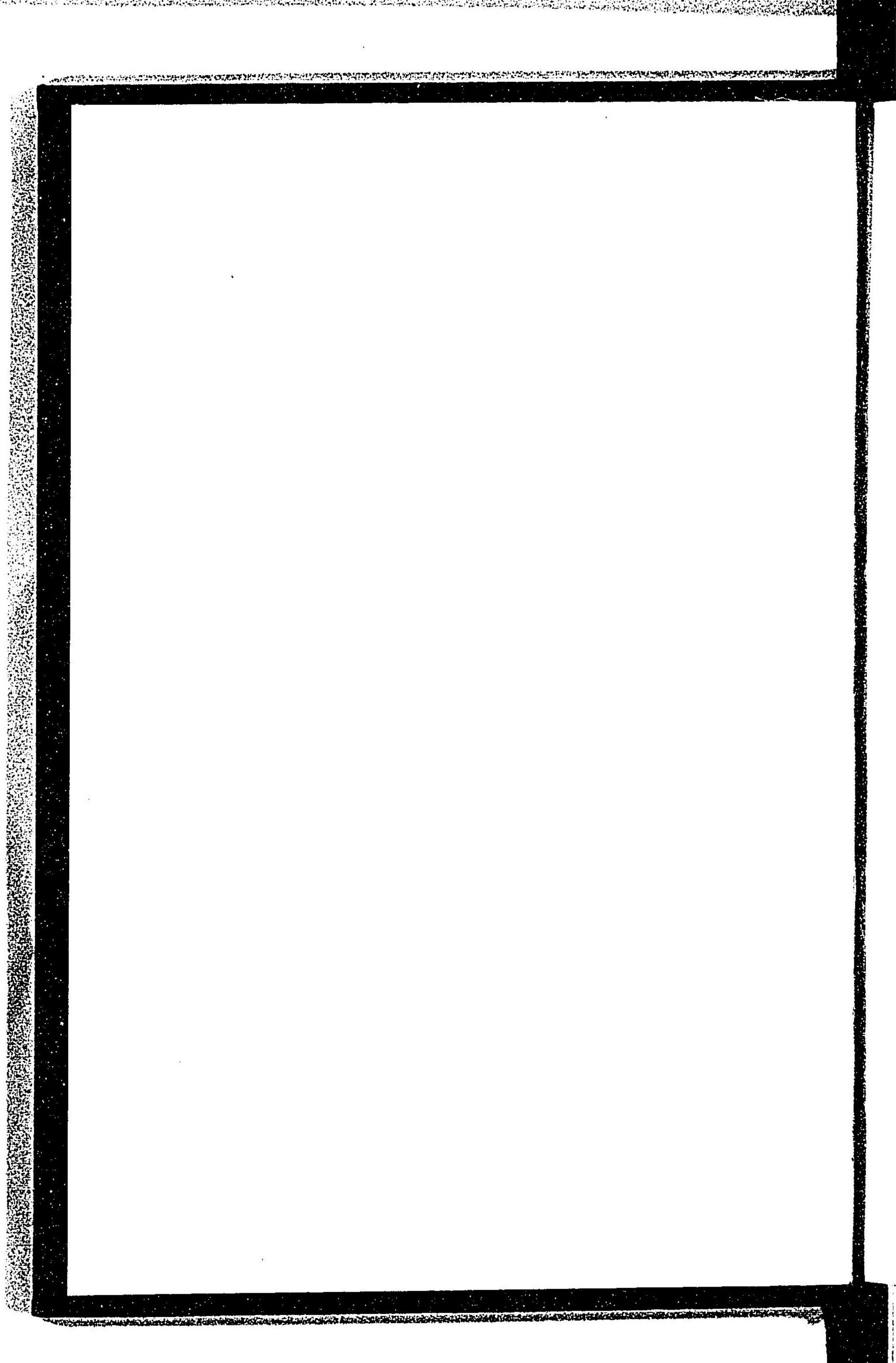
頁數 行數 誤 正

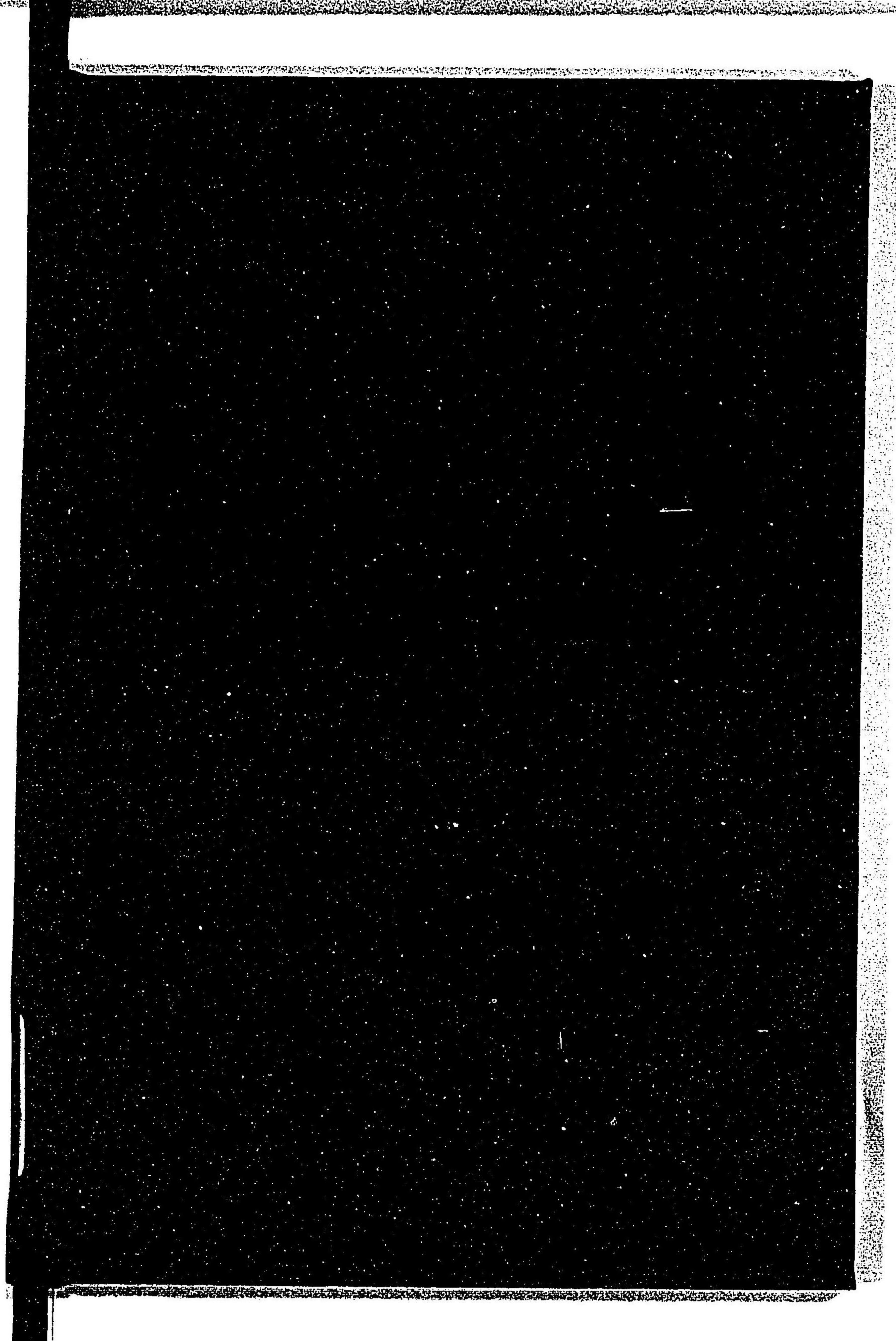
頁數	行數	誤	正
二七三	一	外に	代に
三〇六	七	諸徳	諸愆
三四五	二	する勿れ	たる勿れ











88

47

